

第一小学校

9月25日～10月2日(7泊8日)

○日程表

9月25日(木)		9月26日(金)		9月27日(土)		9月28日(日)	
7:30	出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
12:00	昼食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
12:30	開校式	9:00	林業体験(炭焼き)	9:00	カントリーウォーク	9:30	農業体験
13:30	里山散策	12:00	昼食				
15:30	目黒邸見学 昔話を聞く会	14:00	課題別学習①	11:30	ブナの森散策	12:00	昼食(餅つき)
18:00	夕食	18:00	夕食	12:30	昼食	13:30	農業体験
19:00	はじめましての会	19:00	手紙書き	15:00	宿別体験	18:00	夕食
20:00	語らいの時間 ふりかえり	20:00	語らいの時間 ふりかえり	18:00	夕食	20:00	語らいの時間 ふりかえり
21:30	消灯	21:30	消灯	20:00	語らいの時間 ふりかえり	21:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・1学期のけやきの時間(総合的な学習の時間)では、稲の生長過程を知るために昨年に引き続きバケツで稲の栽培を行った。また学年園を使って田んぼ作りをした。土作りから始まり、芽だし、植え付け、水の管理などを通して、稲の生長する過程を知ることができた。水田の稲の成長とバケツ稲との比較もでき、有意義な学習となった。また、社会科で「米作りのさかんな地域」について詳しく調べ、セカンドスクールで体験する農業体験に結びつけた。また、今年度はそれぞれが「魚沼で学びたいこと」として課題をもって、6つの課題別グループに分かれて学習を進め、現地での学習につなげた。
- ・社会科の水産業の学習では、様々な漁法、漁業が抱えている問題、人々の工夫や努力についての調べ学習を行った。そのため児童は、地元の方の漁業についての話や漁港見学・せり見学などの活動に興味を持つことができた。地曳き網では思ったほど魚が捕れなかったが、漁業の難しさを知る機会となった。
- ・一週間お世話になる民宿の方々に自己紹介カードや学習の様子を紹介など、数回にわたって事前に送り、また宿からも返事や写真付きの自己紹介を送ってもらい、交流をもった。そのため、現地での出会いは「はじめまして」より一歩進んだ形となった。
- ・宿泊する宿ごとのグループ内で役割を分担し、課題別学習の事前調べ学習や生活の約束事作り、集団行動の約束の確認などを行い、学年全体で情報交換しあい、共通理解を図った。

新潟県魚沼市

参加人数 男子36名 女子33名
計69名

9月29日（月）		9月30日（火）		10月1日（水）		10月2日（木）	
5:30	起床	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
6:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	野積海岸で地曳き網	9:00	中山隧道見学	9:00	鮭一括採捕場	8:00	掃除
11:30	昼食	10:00	山古志村見学	12:00	郷土食体験・昼食	10:30	閉校式
13:00	水族館見学	12:00	昼食	13:30	宿別体験	11:00	守門出発
		13:30	課題別学習②	15:00	ありがとうの会準備	12:00	昼食
14:00	寺泊港・市場見学	15:00	写生	17:30	夕食(バーベキュー)	15:30	学校到着
18:30	夕食	18:30	夕食	18:00	ありがとうの会	16:00	解散式
20:00	語らいの時間	19:00	天体観測				
21:30	ふりかえり	20:30	ふりかえり	20:30	ふりかえり		
	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯		

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールにおける稲刈り、脱穀、選別の経験を生かして、セカンドスクールで刈り取った稲の育ち具合とバケツで育てた稲の成長ぶりを比較しながら、自分で育てた稲でできたお米を刈り取り、脱穀することができた。
- ・社会科で学習した水産業に関して、地曳き網体験や漁港やせり市場での見学、寺泊水族館での見学を通して理解を深めることができた。
- ・国語の作文単元の発展として、「セカンドスクールでの思い出」を作文にまとめ、またその後、皆で読み合わせ、お互いが体験した生活の様子を知り合うことができた。
- ・セカンドスクールの体験や学習したことを、「セカンドスクール報告集会」で学校全体に発表した。その際、現地で学んだこと、体験したことを振り返り、班ごとに発表する内容を分担した。またその後、課題別学習のグループごとに学んだことをまとめ、学校公開日にポスターセッションの形で発表した。
- ・学校公開日には、お世話になった民宿の方々や生活・学習指導員方々を招待し、発表を見て頂くことができ、交流を深めることができた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、里山体験

里山体験では、まず初日に各民宿ごとに、周辺が見渡せる場所、湧き水を利用した地元酒造、

国の重要文化財に指定されている目黒邸など、これから一週間生活する魚沼市守門の様子がつかめるよう計画を立ててもらい、案内してもらった。

また、3日目の宿別体験では、近くの山に入り、栗やくるみ等の木の実が落ちていているところを案内してもらい、木の実を拾いながら、栗やくるみの木の特徴や、栗拾いのコツ等を教えてもらったり、畑で育てている野菜を収穫したりして、自然の恵みを肌で感じるができる体験となった。

2、カントリーウォーク

当日は天候が心配されたが、なんとかブナの森まで歩くことができた。小さな川に沿って登っていくコースなので、前日までの雨で足元が心配されたため、長靴を履いて行った。実際、水の中を歩く場面も多かったので、初めての体験に、多くの児童が楽しみながら歩くことができた。また、2班に対して1名の講師の方がついて説明を行ってもらったため、充実した登山を行うことができた。また、湧き水が出る場所に連れて行ってもらって、おいしい水を飲んだり、「この葉っぱの実を食べられるんだよ。」「この辺りの道は、昔から生活する上で欠かせない道だったんだよ。」など、児童の興味を引き出すように自然の様子を紹介していただきながら登山した。そのため、目を輝かせていろいろなものを発見しようとする姿が見られ、サンショウウオを見つけたり、児童の方から質問する場面も見られるようになった。また、地元の小学生も4人及び保護者の方も数人参加して、歩きながら交流を深めた。

目的地であるブナ林では、講師の方の説明を聞きながら、ゆっくりとブナ林を散策した。雪国の自然に適応し、雪の重みに耐えて生きるブナの木の特徴や、たくさん水をたくわえ、田畑を潤すブナ林のはたらきの事など、自然と人々の関わりについて分かりやすく話していただいた。また、「第一小学校の木」を決めさせて頂き、メッセージを書き残した。

<学習体験活動>

1、米の収穫体験

4日目は一日農業体験となった。各民宿で朝食をとると、すぐに稲刈り体験を行った。はじめに、鎌で稲を刈る方法や、刈った稲の束ね方を教えていただき、注意事項も確認したあと、班ごとに場所に分かれて民宿のお父さんの指導のもと稲刈り体験を行った。始めのうちはぬかるんだ田に、歩くことさえ難しかった児童も、上手く鎌を使えなかった児童も、段々と慣れてくると手際よく稲を刈っていった。しかし児童にとっては、その後のかさぎがけするために稲



【稲刈り体験】

を束ねることの方が難しかったらしく、お互いに教え合う姿が随所で見られた。

その後脱穀・選別の作業に移った。千歯こきや、足踏み式回転脱穀機を使って、刈り取った稲を脱穀した。作業をしながら勢いよく飛び散る粃に驚いていた。脱穀した粃は、「ふるい」や「とうみ」を使って選別作業を行った。児童は、毎日食べているお米がこのような大変な作業の末、私たちの所まで来ることを知り、よい体験となった。

また、今年度は農業体験の後にわら細工作りに取り組んだ。稲わらを三つ編みにし、一つ一

つていねいに編んでいった。自分自身のオリジナルのなべしきを作り、児童一人ひとりの個性にあふれた作品が出来上がった。民宿の方も子どもたちの熱心に取り組む姿勢に対し、愛情を持って丁寧に教えて下さった。苦勞しながら完成させた手作りのなべしきを家族へのおみやげにできて皆、満足そうであった。昔の人の生活の知恵、生活の工夫を学ぶいい機会になった。

2、林業体験

実際に山の中へ入って木を伐採する体験と、その木を利用して炭を作る体験の2つを用意していたが、天候不良のため、伐採はできなかった。そのため「ふるさと広場」の方に「なぜ木を切るのか。木を切ることでどんな効果があるのか。」「炭はどうやって作るのか。」「黒炭と白炭の使い方のちがい」など詳しく説明してもらった。また炭焼き体験では、あらかじめ早朝から火を入れておいて頂き、実際に全員が炭出し作業を分担し体験することができた。釜から取り出す時には、高温の熱が顔にあたり驚いていたが、危険な仕事であること、大変な仕事であることを意識して、皆が真剣に作業に取り組んだ。

3、漁業体験

朝5時半に起床し朝食を取ってから魚沼を出発した。地引き網は、誰もが初めて経験する活動だったので、皆が大きな期待をしていた。たとえ雨が降っていなくても波が高いということで中止になってしまうということで、天候が心配されたが、無事実施することができた。船が出て網を張っていく様子を見ながら説明や手順を聞き、各学級ごとに100Mほど離れて、号令と共に網を引き始めた。



【漁業体験 地引き網】

引っ張っては前に走り、また網を引っ張る活動はなかなかの重労働であったが、豊漁を胸に期待しながら一生懸命取り組んだ。しかし結果は、期待に大きく反して10匹程度というものだった。残念がってはいたが、漁業の大変さの一端は感じられたようだった。その後は、昼食で日本海の幸を味わい、満足そうであった。

次に寺泊水族館を見学した。地曳き網を体験した後だけに、真剣に見入っている様子が見られた。特に新潟近海に生息している魚のコーナーでは、目の前に広がる海にこれらの魚たちがいると興味津々としている児童がたくさん見られ、よい学習の場となった。

その後、地元の寺泊漁港市場を見学させてもらった。市場に並ぶ多くの種類の魚を見ながら、フォークリフトで魚が入った箱が運ばれる様子を見学することができた。せりが始まると、児童はそこで働く人の声の大きさや迫力、駆け引きに圧倒されていた。日頃なかなか触れることのない漁業に携わる人々の暮らしぶりを実感することができた。

4、課題別学習

「新潟県魚沼で学びたいことは何ですか」との問いかけにたくさんの答えが返ってきた。「やはり日本一おいしいと言われるお米の秘密が知りたい。」「東京にはない自然についてたくさん学びたい。」「魚沼の名物について調べたい。」「私たちの生活とのちがいを学びたい。」児童は好奇心で一杯だった。そこで総合的な学習の時間を使って、それぞれ学びたいことごとにグループを作って、インターネット等を使って調べ学習をして、セカンドスクールに臨んだ。活動の内容は、予め課題別グループごとに知りたいこと、学びたいことを伝えておき、計画を

立てていただき、2日目と6日目に課題別学習の時間を設定した。課題別学習の内容は以下の通りである。

- ①米グループ（ライスセンターで選別、精米の体験、インタビュー等）
- ②水グループ（周辺の水源地ダム・わき水・ため池・水力発電所等の見学）
- ③自然グループ（周辺の川遊び・コスモス高原散策・裏山で栗やくるみ拾い等）
- ④産業グループ（地場産業の酒蔵「ゆきくら館」・須原スキー場・食品加工工場の見学）
- ⑤人とくらしグループ（民宿で雪国のくらしの話・昔から使われてきた道具等の学習）
- ⑥歴史グループ（国定重要文化財「目黒邸」及び資料館の見学、地元の人との語らい）

＜生活体験活動＞

1、宿での共同生活

セカンドスクールに行く前から、児童にとって魚沼の自然との触れ合いとともに関心を示していたのが、友だちとの1週間に及ぶ共同生活であった。班作りは、人間関係を広げ、協力し合いながら生活するのがセカンドスクールの大切な学習であることを伝え、普段からの仲良し同士では組まない班作りをした。一部不安に感じていた児童もいたが、担任が相談に乗りながら班での準備活動に取り組んだ。

セカンドスクールが始まると、初めの頃はホームシックや班でのトラブルが各宿で見られたが、民宿のお父さんやお母さんとの触れ合いの中で次第に男女が仲良くなり、協力し合う姿が見られるようになった。その中で、友だちの意外な面やよいところを新しく発見したことは大きな自信につながったようで、帰ってからもそれぞれの家で、班での共同生活がうまくいったこと、楽しく過ごせたことを自慢しながら話していたという報告がたくさん入った。

2、郷土食体験

郷土食体験は各民宿で班毎に分かれて8種類の郷土食を作って食べた。五目ご飯を作った班では、地元でとれた山菜や野菜を入れて、班員が協力してたくさん作り、引率した先生に振る舞うなど、地元の料理に愛着を持って調理をする様子が見られた。きのこご飯を作った班では、普段は好き嫌いの多い子どもたちも、料理を残さずおいしそうに食べていた。地元の素材の米粉を使ったおやきを作った班では、生地 zu 上手に具を入れる方法を教わり熱心に取り組んでいた。ソバ粉のじり焼きを作った班では、自分たちの取った野菜を使って、初めて作る料理に興味津々であった。作り終わった後には、たくさんおかわりをし、自分たちの作った料理を思う存分食べ、満足そうであった。どのグループも民宿の方々との会話を通して、昔から伝わる様々なことを学ぶことができ、自分たちの料理を自慢するほど楽しんだ郷土食体験であった。

○児童の感想

- ・稲刈りでは、初めて鎌を使いました。うまく使えるか心配でしたが、宿のおばあちゃんが「力をぬいてやるんだよ。」と教えてくれたのでその通りにやったら、うまく刈ることができました。東京ではできない体験をしてよかったです。また新潟に行きたいです。そして夏や冬の新潟も見てみたいです。
- ・宿別体験では、コイのつかみどりをしました。コイと聞いて私は、30、40cmぐらいか

なと思ったけど、15cmぐらいと聞いてあまり想像できませんでした。でも見てみたら思ったよりきれいな色でした。やってみるとぬるぬるしていてつかまえにくかったけど、角においつめてみたら楽にとれました。すごく楽しかったです。

- ・友達と協力すること、友達の意見も尊重することなどというたくさんの素晴らしいことを学びました。このセカンドスクールでちょっと心が成長したと感じています。これからもセカンドスクールの体験を学校生活に生かしていきたいです。

○保護者の感想

- ・セカンドスクールでは、普段できない体験をたくさんでき、いろいろと学べてとても良かったと思います。これから生きていく上でいい勉強になったと思います。
- ・自分たちが米作りの一端を手伝わせてもらい、そのお米をメッセージ付きで頂いたり、セカンド発表会の時に、民宿の方がそばに寄ってきて「上手にできたねえ。」と、まるで本当の孫に声をかけるような姿に目頭が熱くなりました。
- ・セカンドから帰ってきた子どもを見て、魚沼での体験の重さ、楽しさを大切に思っている子どもたちの情熱のようなものを感じます。ただ行って体験してただけではない奥の深い意義ある8日間であったことが伝わります。この先もどんな風にこの体験が生かせるか、楽しみです。

○総合的な学習の時間との関連について

米作りに対する意識を高め、収穫の喜びを分かちあえるように、例年行っているバケツ稲による米作りに加えて、今年度は学年園を使って、田んぼ作りにも挑戦した。土作りから始めて、種粃から育てていった。稲穂が実り始めると、鳥に食べられないように、かかしなどを作るなど、意欲的な活動が見られた。そしてセカンドスクール後には刈り取り、宿の方に教えていただいた方法を生かして脱穀、精米し、試食した。また、セカンドスクール後には、課題ごとに学習したことをまとめて、保護者や指導員の先生に向けて発表する活動を行った。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・昨年、プレセカンドスクールを体験したことで、宿泊に対する不安も減り、期間が長いセカンドスクールにも意欲的に取り組めたと思う。荷物も多く、分泊するため、自己管理しなくてはならない場面が多くなったが、友達同士声をかけ合っていてできていた。友だちとの関係も、初めのうちは小さなトラブルも見られたが、次第になごやかに過ごせるようになり、大きな自信をもったようだ。

○次年度に向けての反省・課題

- ・プレセカンドとの関連を考慮し、新しい活動場所でのプログラムの計画を民宿の方々や市の観光課の方々と連絡を取り合いながら練り上げていく。
- ・生活・学習指導員の早めの確保と打ち合わせ時間の確実な設定が必要に感じられた。

第二小学校

9月21日～9月28日(7泊8日)

○日程表

9月21日(日)		9月22日(月)		9月23日(火)		9月24日(水)	
7:00	武蔵境駅集合	6:30	起床・検温・健康観察	6:30	起床・検温・健康観察	6:30	起床・検温・健康観察
7:10	出発式		清掃・出発準備		清掃・出発準備	7:00	清掃・出発準備
7:38	武蔵境駅発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
	東京駅着	8:30	地域探索			8:30	今までの学習をまとめよう
9:28	東京駅発			9:00	めんめん館着		
10:40	越後湯沢駅着	9:30	そばを打とう		朝会・講師紹介	10:00	いわぶち着
10:48	越後湯沢駅発			9:20	峠の一本杉をめざして		朝会・講師紹介
	車中昼食	11:00	昼食	12:00	峠の一本杉着		森林を守る仕事を知らう
12:57	高岡駅着	12:10	そばの郷資料館見学	12:15	ブナの原生林・昼食		
13:15	高岡駅発					13:00	昼食
	休憩	14:00	木工工作 鳥笛を作ろう	13:15	原生林を歩こう		
15:20	行政センター着			15:00	坂上の大杉見学	13:45	生命の大切さを知らう
15:30	開校式	16:30	各民宿着	15:20	そばの郷着		(岩魚づかみから)
16:00	各民宿到着	18:00	検温・入浴		お礼の会	15:45	お礼の会
17:00	自己紹介の会		夕食	16:00	各民宿着	16:30	各民宿着
	自分の箸を作ろう			17:00	検温・入浴	17:00	検温・入浴
18:00	検温・入浴	20:00	利賀の話を聞こう	18:00	夕食	18:00	夕食
	夕食						
20:00	学習のまとめ	21:00	学習のまとめ	20:00	お家の人に手紙を書こう	20:00	利賀の話を聞こう
	健康観察		健康観察	21:00	学習のまとめ	21:00	学習のまとめ
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	健康観察		健康観察
					就寝	21:30	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

「利賀の森は地球を守る」(教科横断型総合単元的学習としての特別プログラム)

セカンドスクールで出会うであろう様々な疑問や問題を想定し、セカンドスクールが自己解決(ファーストスクールの補完)の場になったり新たな学習への興味・関心や意欲を高められたりする場になるように、4月当初から教科横断型総合単元プログラムを作成(主な内容は下記)し、事前に学習をした。

- ・校庭の樹木観察(自然への興味関心意欲の高揚・自然観察の基礎学習)
- ・雑木林や里山観察(自然に近い人工林の様子・人工林の役割と維持管理・地域活動ボランティア体験)
- ・日本の森林(形相・環境)
- ・森林と日本人との歴史的なかわり(暮らしと環境)
- ・森林のはたらき(産業・動物の住処・空気浄化・貯水・土砂災害防止・暴風防砂・憩い・海)
- ・林業(5年社会科の林業の発展補充的内容)
- ・環境問題と環境保護活動(日本の絶滅種を含めた広範な環境問題・地域活動からナショナルトラストまで)
- ・自由研究の在り方(様々な例やそのまとめ方の学習・夏休みに実践)

② 事後の学習内容

セカンドスクールで学習した内容は、現在以下のような学習に生かしている。尚、3学期はセカンドスクールを起点としての問題解決学習単元の詳細を練っている段階である。

- ・各自のメインテーマ発表(国語の「人と「もの」の付き合い方」と単元合併、セカンドスクールの成果)
- ・セカンドスクール新聞作り(総合)と親子で語るセカンドの会(学活)
- ・学習発表会「セカンドスクール2008/利賀の森は地球を守る」(台本・演出・効果等全て児童)

富山県南砺市利賀村

参加人数 男子36名 女子36名
計72名

9月25日(木)		9月26日(金)		9月27日(土)		9月28日(日)	
6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:00	起床・検温・健康観察 清掃・荷物準備
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	6:50	朝食 出発準備
9:00	利賀小学校着	9:00	利賀小学校着	9:00	そばの郷着		閉室式
9:10	課題別に活動しよう①		始めの会 自己紹介・校内見学 キンボール大会	10:00	相倉合掌造り集落着 相倉集落を見学しよう 民俗資料館見学	8:30	そばの郷着
11:15	課題別に活動しよう②	12:00	給食	11:15	相倉合掌集落発	8:40	閉校式 お別れ会
13:30	昼食	13:00	民舞 麦屋節を踊ろう 利賀小学校の子と遊ぼう	12:15	民宿着	9:10	そばの郷発 休 憩
14:30	稲刈りをしよう	15:30	お別れの会	12:30	昼食(各民宿)	11:00	高岡駅着
16:30	民宿着	16:30	民宿着	13:30	民宿ごとの活動をしよう 餅つき、わらじ作りなど	11:41	高岡駅発
17:00	検温・入浴	17:00	検温・入浴	17:00	検温・入浴	12:00	車中昼食
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	お別れ夕食会	14:03	越後湯沢駅発
19:00	ありがとうの会準備	19:00	民宿の人に色紙を書く	19:00	ありがとうの会	15:20	東京駅着
21:00	学習のまとめ	21:00	学習のまとめ	21:00	学習のまとめ	16:40	武蔵境駅着
	健康観察		健康観察		健康観察・出発準備		解散式
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	17:15	解散

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、峠の一本杉をめざして・原生林を歩こう

東京では感じられない利賀の森林を体全体で感じ、一人一人が個人の課題に対して深く考え、行動するために、10の民宿班に1人ずつの講師の先生についていただき実施した。道中は木や植物、石等、利賀の自然についての話を聞きながら歩いた。植物だけでなく、動物の糞や木に残る熊の爪痕などの説明もあり、子どもたちはとても興味をせめていた。話をよく聞き、質問をしながら、石や枝、植物を夢中になって採集していた。ブナの原生林に少し入ったところで昼食をとり、その後利賀に残る原生林の小道を説明を聞きながら歩いた。途中湧き水を飲んだり、坂上の大杉を見たりしながらそばの郷に着いた。湧き水の冷たさ、大杉の太さに驚くと共に、自然の雄大さを感じていた。子どもたちの関心にあわせた講師の方々の話と、危険のない整備されたコースで、利賀の森林を実感できた活動であった。

<学習体験活動>

1、自分の箸を作ろう

民宿ごとに竹の箸作りを行った。民宿の方に箸作りの工程、小刀や紙ヤスリなどの道具の使い方を教えていただき始めた。製作した箸はセカンドスクール期間中民宿での食事の際に使用するということもあって、意欲的に取り組んでいた。初めて民宿に行き、すぐに取り組んだ活動であったため、民宿の方々といろいろな話をしながら進めることができ、民宿の方との最初の交流ができた。また、班の中で教え合いながら取り組むことで、これから班で共に生活していくということが意識された活動であった。

2、そばの資料館を見学しよう

学級ごとにそばの資料館の1、2階に分かれて見学をした。1階ではそばの歴史や種類などについて解説を行っていただき、子どもたちは興味をもちながらメモをとり、質問をしながら学習した。2階ではそばの育ち方やそば作りに関するネパールとの交流についてのビデオを見たり、そば祭りに関する展示物などを見たりした。午前中に行ったそば打ちと関連させながら、そばについての理解を深めることができた。予定よりも時間はかかったが、自由に見学する時間も十分にとることができた。

3、木工作 鳥笛を作ろう

雨天プログラムとして予定していた木工作、鳥笛をつくろうを行った。利賀ならではの和紙に利用される楮の木を小刀を使いながら削っていった。最初は慣れない手つきの子もいたが、徐々に慣れていき、夢中になって削っていた。音が出るようにするのはなかなか難しく、苦戦する姿もしばしば見られたが、現地の方に丁寧に教えていただき、最後まで投げ出さずに全員が完成させることができた。時間はかかったものの、一人一人が完成するまでじっくと自分の力で取り組むことができた活動であった。

4、森を守る仕事を知ろう

利賀村森林組合の方々から、森を守る仕事、森林の大切さなどの話を聞いた。事前に総合の学習で森林について学習したことと関連させながら聞くことができ、質問も多くされた。大きな木の伐採実演を見せていただいた。普段あまり目にしない道具や便利な機械を使っての実演は迫力があり、子どもたちは「お～」という感嘆の声をあげながらとてもめずらしそうに見ていた。その後場所を移し、班ごとに講師の方についていただき枝はらいを行った。一人一人のこぎりをもち、枝を切った。とても夢中になって取り組んでいた。なかなか切ることができず時間がかかる子どももいたが、山での仕事の大変さを感じながら活動した。

5、課題別に学習しよう

事前に利賀村のことを調べ、その中で疑問に思ったことや実際に行って、見て、調べてみたいことを班ごとに話し合い、選択課題として班で追究することとした。(1)利賀の自然、(2)利賀の暮らし、(3)利賀の伝統文化、(4)利賀の歴史、(5)利賀の産業である。事前に課題の内容を知らせ、班ごとに講師をつけていただいた。子どもたちは自分の課題について伝えながら、話を聞いてメモをしていた。課題によっては資料館の見学をする班もあった。課題別の学習を後半に設定したのは、セカンドスクールに来てから教えていただき学習したことと関連させながら聞いたり体験することができ、とてもよかった。

6、稲刈りをしよう

班ごとに講師の先生についていただき、稲を刈る班と笠懸をする班を交代しながら行った。講師の方々に、釜での稲の刈り取り方、束ね方、笠懸の仕方などを教えていただいた。前日の雨のため足場はぬかるんでいたが、子どもたちはとても一生懸命に取り組んでいた。ほとんどの子どもは初めての体験であり、社会科



【稲刈り 笠懸】

で学習した「米作り」の学習を身近に感じることができた活動であった。

＜生活体験活動＞

1、そばを打って食べよう

利賀村の郷土料理であるそば打ち体験をした。それぞれの民宿の個性を生かした作り方や教え方に、どの子どもも引き込まれ積極的に取り組んでいた。粉に水を入れ、こねて、丸めて、伸ばして、切るなどの作業を実際に実演しながらていねいに教えていただいた。こねる難しさ、細く切る難しさを感じながらも、自分たちで打ったそばをおいしく食べることができ、満足な表情を見せていた。

2、生命の大切さを知ろう(岩魚つかみから)

担当の方の話を聞き、川に入った。夢中でつかもうとする子どももいれば、触るのに抵抗をしめす子どももいたが、友だちと協力しながら全員がつかまえることができた。その後グループごとにさばき、串を差して炭火で焼いて食べた。さばく時に泣き顔になって「できない」と言っていた子もいたが、自分たちが生きていくためには必要なことであり、生きるために命をいただいているということを実感した活動であった。

＜地域の人々とのふれあい＞

1、民宿ごとの活動

最初は子どもたちの中にも不安があったが、民宿の方々が本当の家族のように接してくださったおかげで、すぐに不安は消えとけ込むことができた。7日目には、事前に民宿の方々が計画し準備してくださった民宿での活動を行った。岩魚の選別、わら細工、餅つき、さつまいも堀、アケビ取り、野菜の収穫、畑仕事、おはぎ作りなど、すべてが普段体験できないことであり、子どもたちはいきいきと活動していた。また他の日にも、ちぎり絵や薪割り、栗拾いなどをさせていただき、子どもたちにとって毎日が利賀の人々とのふれあいだった。最後の日には「お別れ夕食会」が行われ、「ありがとうの会」では歌を歌ったり、武蔵野市のことを教えたり、手紙を読んだりし、心を込めてグループ全員で書いた色紙を渡し、感謝の気持ちを伝えた。最後の日の別れでは、抱き合いながら民宿の方々との別れを惜しみ、涙した。

2、利賀小学校と交流会をしよう

利賀小学校に着くと、利賀小の子どもたちが玄関で出迎えてくれた。開会式の後各班で自己紹介を行い、利賀小の子どもたちが校内を案内してくれた。その後、体育館に集まりキンボールの試合を行った。最初はどう動けばいいかわからない様子の子どももいたが、教えてもらいながら徐々に動きが分かり、今まで味わったことのない楽しさを感じていた。お昼は給食を校内で食べ、午後からは男女に分かれて利賀村の民舞「麦屋節」を教えてもらった。動きが速かったり、笠回しなどができな



【麦屋節を踊ろう】

かったりと悪戦苦闘している姿が見られたが、利賀小の子どもの動きをじっくり見ながら、教えてもらっていた。最後に全員で輪になって踊った。利賀小の子どもたちとも仲よくなり、手紙を書く約束をしている子どももいた。別れの時は、別れを惜しみ最後までずっと手を振っていた。

○児童の感想

- ・バスで山の中にはいると、霧がたくさん出て前が見えなくなり、不思議な気持ちになりました。東京とは緑の数も空気も全く違って、すごく自然がいっぱいでした。
- ・箸作りでは、まず竹を小刀で削っていきます。鉛筆を削ったことはあったけれど、竹はなかなか削れなくてぼこぼこになってしまいました。おとうさんがぼこぼこをなおしてくれ、食べやすい箸になりました。
- ・そば打ちがとても楽しかったです。のばすとき厚さが同じにならず、形も整わず、やぶけたりして大変でした。でも民宿のお父さんがプロ並の手つきで直してくれてうれしかったです。
- ・登山では、途中に動物園でしか見たことのない野ウサギやアオダイショウ、毒をもっているマムシなどの生き物を見ました。5時間も登って疲れたけれど、頂上に着いたときは眺めがよく達成感がありうれしかったです。
- ・木の伐採では、チェーンソーで大きい音を響かせながら太い木を切っていました。普段見たことがなく、すごい迫力でした。枝打ちでは、のこぎりで枝を切りました。手をたくさん動かしたので手が痛くなったけれど、切れたときは気持ちよかったです。
- ・岩魚つかみは岩魚が速くて最初は捕まえられませんでした。岩魚をさばいていたら、血が出たり心臓があり気持ち悪かったです。しかし、命をいただいていることを痛感し、感謝したいと思いました。
- ・課題別学習ではとても勉強になりました。歴史を調べてみて、昔の人は電気もガスもない中で、様々な工夫をこらし、住みやすくしていたんだなと思いました。
- ・利賀小学校との交流では、校内を案内してくれたり、キンボールを一緒にしたり、麦屋節を教えてもらったりして、たくさんの友だちができました。最後のお別れの時は最後まで精一杯手をふりました。
- ・相倉合掌造りの家は、屋根がわらで、角度が急で、木で造られていました。冬には暖かく、夏には涼しいという気候に適した家でした。
- ・最後の日、民宿でバーベキューをして、ありがとうの会をしました。感謝の気持ちを伝えることができました。あと1日しかないと思うとさみしかったです。
- ・利賀村を離れたときは、とても悲しかったです。でも、たくさんの思い出ができて、宝物のセカンドスクールになりました。
- ・私は不安と心配でいっぱいだったセカンドスクールに行って、もっといたいなと思いました。民宿の人が優しくて、本当の家族みたいでした。

○保護者の感想

東京では体験できないことをたくさん経験し、いろいろなことを感じ、一回り成長して帰ってきました。帰宅したときは胸がいっぱいな様子で、自分の中で思いを整理しているかのようでした。翌日から利賀で見たこと、聞いたことをたくさん話してくれました。山でたくさんの植物を見たこと、木を実際に切ったこと、岩魚を自分の手でさばいたこと、すべて子どもにとっては貴重な体験であったようで、目を輝かせながら、気持ちがいっきに溢れたように話してくれました。民宿の方々には本当によくしていただきました。家族のように接してくれたことに、最初の不安はうそのように、安心して楽しく過ごすことができたようです。同じ民宿だった友だちと集まって早速お礼の手紙を書いていました。「また行きたいな」という言葉に、本当に充実した日々であったのだと、うれしくなりました。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間に、セカンドスクールに行くまでは「利賀の森は地球を守る」というテーマで学習を進めた。1学期には校庭の樹木から始まり、雑木林や日本の森林について学習した。そして森林のはたらきの学習をすることで、私たちにとって森林がどれほど重要な役割をしているかということを考えさせながら学習を進めた。2学期には林業について学習した後に、現地での課題別学習につながるように、利賀村について調べ学習をしながら自分の課題がもてるように支援した。帰ってきてからの発表ではグループごとに活動で学習したこと、感じたことを中心にまとめさせ、自分たちの力で発表の方法を考えられるように助言した。3学期は、「おにぎりパーティーをしよう」というテーマで、現地で刈り取ったお米を送っていただいたので、それを使ってご飯を炊いておにぎりにして食べてみようという活動を予定している。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

自分のことは自分でする、グループの人と協力しながら生活するなど、プレセカンドスクールでの宿泊体験の成果と言える集団生活の基礎的なことが身に付いていた。学習面では、事前学習、現地での課題追究学習、事後発表をそれぞれ関連させながら取り組む学習過程がつかめていた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・枝打ちをする際に、森林の中で活動が行えるような場所の検討をしたい。
- ・課題別学習の内容を事前にもっと細かく絞っておく必要があった。
- ・課題別学習では、体験的な活動など現地でしかできない活動内容を入れられるように事前に講師の方々との打ち合わせが必要であった。
- ・稲刈りをする際、洗い場や田の広さの関係から、場所の検討をしたい。

第三小学校

10月15日～10月22日(7泊8日)

〇日程表

10月15日(水)		10月16日(木)		10月17日(金)		10月18日(土)	
8:15	出発式	9:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会
11:45	昼食	9:30	稲刈り体験	9:30	花咲探検	9:30	脱穀
12:15	開校式	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	周辺散策	13:30	食材作り体験	13:00	リンゴの収穫体験	13:30	薪集め
15:00	野菜の収穫体験	16:00	夕方の会	15:30	リンゴジャム作り		イナゴ捕り
19:00	紹介の会	19:30	学習の記録	19:30	学習の記録	15:00	尾瀬高校訪問
20:00	学習の記録					19:30	学習の記録

〇セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・社会科の「わたしたちの生活と食料生産」で、自分たちが日頃食べているさまざまな食材は、日本各地で生産され届けられていることを学習した。
- ・「米作りのさかんな地域」「野菜作りのさかんな地域」「水産業のさかんな地域」について学習を進めていくことで、食料生産にたずさわる人々の苦労や工夫、願いについて知ることができた。このことがセカンドスクールで、実際に農業にたずさわる人の声を聞いたり、自分も体験したりしたいという思いにつながった。
- ・総合的な学習の時間において、バケツ稲の栽培に取り組み、米作りの過程について学習した。生長の様子を観察・記録するとともに、片品村の稲と比較し、農家の方々の工夫や苦労を理解できるようにした。
- ・片品村について関心をもったこと(自然・産業・交通・文化・その他)について、一人一課題を担当し、図書資料・インターネット・観光パンフレット等を参考にして調べ学習を行いまとめたものを冊子にした。そしてその冊子をもとに、事前発表会を行った。
- ・お世話になる民宿の方に向けて自己紹介カードを作成し、事前を送付した。「どのような子どもが来るのかがよく分かる。」と民宿の方にも好評であった。
- ・片品北小学校が作成した尾瀬花カルタを練習し、尾瀬に咲く花を覚えたり片品北小でのカルタ大会に備えたりした。
- ・片品北小学校の交流会で歌う歌や合奏する曲の練習をした。

群馬県利根郡片品村(花咲地区)

参加人数 男子46名 女子32名
計78名

10月19日(日)		10月20日(月)		10月21日(火)		10月22日(水)	
8:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会	8:00	清掃・身支度
9:00	尾瀬の自然体験	9:30	川での体験	9:30	里山での収穫体験	9:00	各民宿での 勤劳体験
12:00	昼食	10:30	かまど作り	12:00	昼食	11:00	昼食
13:00	尾瀬の自然体験	11:00	火おこし体験	14:00	片品北小交流会	12:00	閉校式
19:00	学習の記録	12:00	昼食作り	19:00	感謝の会	15:30	帰校式
		15:00	感謝の会準備	20:00	学習の記録		
		19:30	学習の記録				

② 事後の学習内容

- ・総合的な学習の時間「セカンドスクールをまとめよう」の中で、片品村や尾瀬で学んだことを模造紙にまとめたり、作文に書いたり、劇にしたりした。読み手や聞き手に分かりやすく伝えるために、それぞれの体験活動の写真を載せたり、具体例を用いたりして作品を作りを上げた。セカンドスクールで学んだことをさらに深めることができた。
- ・国語科「お礼の手紙」の学習実践として、お世話になった民宿の方々・尾瀬高校の生徒さん・指導員の先生方・片品北小学校の児童のみなさんにお礼を述べ、近況を報告する手紙を書いた。手紙の形式にあてはめながらも、お礼の気持ちが伝わる文章を書くことを心がけ、真剣に取り組むことができた。
- ・総合的な学習の時間でバケツで育てた稲を収穫した。乾燥・脱穀・粳すりの作業を行った後、3学期におにぎりパーティーを計画している。学校のバケツ稲作りでは、セカンドスクールでの体験に比べ、わずかなもみしか得られないことを目の当たりし、米作りの苦労を改めて知った。一粒の米をも無駄にしないといけないという思いをかみしめることができた。
- ・3学期に4年生に向けてセカンドスクール報告会を計画している。自分自身の振り返りとともに4年生の意欲付けにしたい。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、川での体験・火おこし体験

民宿の近くに塗川が流れている。川の水はかなり冷たいが、子どもたちはズボンをまくって

勢いよく川に入って行った。川で遊ぶことを通して、自然の川の冷たさや水の流れの強さなどについて実感できたようである。

川に入った後は、いよいよ火おこし体験である。まずはかまど作りを行った。河原で石を拾ってグループごとにかまどを組むのである。何よりも安全を優先させなくてはならないので、川岸に下りては一人一つ石を持ってくるという作業を繰り返した。子どもたちは、「重ねるためには平らな石を持ってこないといけないね。」と石を集めるにも知恵を絞っていた。石を集め終わるとかまどにかけ鍋の大きさや風向きを考えながら組んでいく。この間、教師や指導員は口をはさんだり、手を出したりすることを極力控え、子どもたちに試行錯誤させた。かまどができあがったら火おこしである。火おこしは、焚きつけようの新聞紙1枚とマッチ5本だけで行う。うまくつくかどうかは自分たちで集めてきた薪が良質であるかどうかにもかかっている。



【火おこし体験】

ここでも、教師や指導員は、見守るだけである。子どもたちは、火をおこすために、ああでもない、こうでもないと頭をひねっていた。マッチが最後の1本になってしまった班の子どもたちは真っ青。最後の1本は、マッチをする手が震えていた。見事に火がついたときは、一斉に「やったー」と大歓声。満面の笑顔であった。その後、おこした火ですいとんとジャガバターを作った。その味は格別だったようである。

2、イナゴ捕り

稲の脱穀作業の後にイナゴ捕りをした。最初は触るだけでも「キャー、怖いよー。」と騒いでいた子どもたちも、こつをつかむとどんどん捕れるようになった。ある班が捕ったイナゴの数は、なんと約400匹もいた。全て佃煮にした。「虫なんかとてもじゃないけど食べられない。」と言っていた子どもたちも、恐る恐る食べてみる。すると、「意外とおいしいねー。」と大喜び。「佃煮って高級なんだよ。」と話すと「ええ、じゃあ、片品村ではお金がはねているみたいだね。」などと言っていた。(思わず笑ってしまった。)

3、尾瀬ヶ原ハイキング

尾瀬の自然体験の前日、子どもたちは尾瀬高校を訪問し、ネイチャーガイドとして案内してくれる高校生と顔合わせをした。尾瀬高校では、校舎内を案内してもらったり、校内にある植物園(ミニ尾瀬)を見学させてもらったりした。校舎内に展示されている動物のはく製を見ると「これ本物ですか。」と目を丸くしていた。植物園では、尾瀬の木道で古くなったものをもらい受け、再利用していた。その木道を渡りながら自然散策をしたため、子どもたちにとって尾

瀬が少し身近に感じられたようである。

いよいよ尾瀬の自然体験の日がきた。尾瀬高校生にガイドをしてもらいながら尾瀬ヶ原のハイキングに出発した。当日は最高の天気であった。風はそよそよと心地よく、ほほを吹き抜けていく。目の前には燧ヶ岳、背後には至仏山、そして周り是一片に広がる湿原、心に焼き付く風景であった。

ガイドの高校生は、尾瀬の歴史や、植物の名前、周囲に見える山々の名前や、川の生物についてなど、ていねいに子どもたちに話してくれた。「尾瀬ヶ原の湿原の成り立ち」や「もしその湿原が人間によって踏み荒らされたら回復までにどれだけ時間がかかるのか。」といった興味深い話を聞くことができた。「環境保全とか自然保護とか簡単に口にするけれど、それがどんなに大きな意味をもつことなのか。」ということや、「保護する活動を継続していくことこそが大切なのだ。」ということなどを実感することができた。各グループにガイドがついてくれたため、十分な説明を聞くことができ、その場で質問することもできた。さすがに尾瀬に精通している生徒さんたちである。子どもたちの体力を考えながら歩いたり、声かけをしてくれたりした。そのこともあって子どもたちはたいへん楽しくハイキングを行うことができた。セカンドスクール終了後、「一番心に残った活動は。」と問いかけると、「なんと言っても尾瀬の自然体験」という返事が返ってきた。

＜学習体験活動＞

1、農業体験(稲刈り)

民宿の方々をゲストティーチャーとして招き、鎌の使い方や束ね方などを教えていただいた。子どもたちは、「刈り取り」「束ね」「つるし」「落ち穂拾い」までの一連の作業を行った。なんといっても難しいのが、わらを束ねる作業である。結び方の指導を受けはしたが、初めはなかなかうまくいかなかった。しかし、何回も束ねる作業を続けるうちに、力強く結べるまでになった。「とても上手に束ねることができたね。」と民宿の方にほめられると、子どもたちはさらにやる気を出して作業に取り組んでいた。稲刈りをした田は、ぬかるんでいるところもあり、長靴をはいていた足が泥に埋まって身動きが取れなくなったり、倒れてしまったりする子どももいた。昔の農家の方々の苦勞を感じることができたようである。とても大変な作業だったが、予定していた田の稲をすべて刈り取ることができ、子どもたちは達成感を味わっていた。



【稲刈り・束ね体験】

2、片品北小学校との交流会

今年度初めて片品北小学校との交流会を行った。片品北小学校は全校児童60数名の小規模校である。全校を挙げて出迎えてくれた。互いにあいさつをした後に片品北小学校から歌のプレゼントがあった。1年生から6年生までが元気よく歌ってくれたので、第三小学校の子どもたちもリラックスできたようだ。

続いて第三小学校からの歌と金管、木管楽器等を入れた合奏のプレゼントをした。歌はすぐに歌えるのだが、合奏は練習を積んでいないと音が出なくなってしまうため、前日に民宿が所有しているグラウンドを借りてリハーサルをした。村の山々にきれいな音がこだまし、何とも言えない響きであった。そのかいあって当日の演奏は大成功であった。吹奏楽団がない片品北小学校の子どもたちにとっては、とても印象深い演奏であったようである。

互いに演奏を披露した後にはカルタ大会を行った。このカルタには片品北小学校の卒業生が在学中に描いた尾瀬の花が描かれている。さすがに地元の子どもたちは取るのが速かった。特に6年生は目にもとまらぬ速さで取っていく。第三小学校の子どもたちも事前学習で練習していったのだが、やはりかなわなかった。みんなが笑顔のカルタ大会となり、盛会のうちに交流会を終えることができた。学校を出るときは全校の子どもたちが見送ってくれた。地元の温かさが伝わってくる交流会であった。

＜生活体験活動＞

1、民宿の方とのふれあい

78名の子どもたちが10軒の民宿に分かれて宿泊した。初日の野菜の収穫体験では、花豆の皮むきをしたり、畑に行って大きなサツマイモを収穫したりと現地ならではの活動をさせてもらった。民宿の方と語らいながらの作業だったので、打ち解けるよい機会となった。

初めのうちは遠慮がちの子どもたちであったが、8日間の生活を通して家族同然になっていた。8日目の勤労体験活動では、民宿の方への感謝の気持ちをこめて、清掃をしたり、障子はがしをしたり、農作業を手伝ったりした。また、最後の夜の感謝の会は、手紙を贈ったり、歌をプレゼントしたり、各グループとも心のこもったプログラムを準備し、感動的な会を開くことができた。

「最終日、民宿の方々と別れるのは悲しかったが、別れがあるから出会いがうれしいんだとぼくは思う。ぼくは、最後の『ありがとう』の一言に心を込めた。そして、さよならは言わずに手を振った。いつかまた、必ず会える日が来ると信じているから。」という作文に、子どもの思いが表れていた。

○児童の感想

- ・わたしたちが宿泊した片品村は、とてもきれいな村でした。吉祥寺にもたくさんの自然があるのが自慢でしたが、片品村の自然は作られたものではない100%天然でした。だから空まで手が届きそうで、緑が色鮮やかでした。空気もきれいなのか体に入ってくると体の奥がシュワシュワと目を覚ましていくみたいでした。
- ・食材作り体験では、こんにやくを作りました。こんにやくを作っているときに感じたことは、こんなにぐにゃぐにゃで柔らかくて本当にこんにやくになるのかなあということです。本当に固まったときにはびっくりしました。自分で作った食材は最高においしかったです。
- ・尾瀬高校の生徒さんにお話を聞いたことが心に残っています。尾瀬には毎日、歩荷と呼ばれる人が行き来していて、歩荷の人は、尾瀬ヶ原周辺の休憩所などに食料を運ぶために、ときには100kg以上にもなる荷物を歩いて運んでいるそうです。私は、尾瀬はいろいろな人に支えられて成り立っているということが分かりました。
- ・リンゴ園では友達といっしょに地面に寝そべりながらリンゴを食べました。すると、おい

しい汁が口いっぱいに広がりました。宿に帰るとリンゴのジャム作りをしました。民宿のお母さんが分かりやすく説明してくれたので、みんな上手にできました。次の日、パンにつけて食べたらとってもおいしかったです。

- ・たくさんの自然を見ながら、ゆっくり歩いた尾瀬。辺りに広がる広大な風景を見ながら食べた昼ご飯。どれも心にはっきりと焼き付いた。帰りも、鳥のさえずりや風で揺れる木の音などを聞きながら鳩待峠に向かった。全く疲れなかったのも、たぶん自然を眺めていたからだ。

○保護者の感想

- ・自然の中でゆったり過ごした時間は、子どもにとって貴重な体験となったようだ。
- ・民宿の方々に大変優しくしていただいた。民宿では自分たちから積極的に手伝いをしたようで、帰ってきてからも家の手伝いをするようになった。続けてほしいと思う。
- ・友達との生活が本当に楽しかったようだ。かかわりが深くなり、今まで見えなかったよさを感じることができたと話していた。

○総合的な学習の時間との関連について

セカンドスクールでは稲刈りや脱穀の体験をした。しかし、収穫体験だけでは子どもたちは米作りの工夫や苦労を実感することはできない。そこで、4月から半年間をかけてバケツ稲作りに取り組んだ。自分自身が育てた米と農家の方が作った米とを比較することもできるので、来年度以降も続けていきたい。

3学期に4年生に向けてセカンドスクールについて伝えることを前提に、セカンドスクールでの体験記をそれぞれ絵本にまとめることにした。セカンドスクールの概要を伝えるだけでなく、4年生に一つ一つの体験や活動に興味をもってもらえるような伝え方をしようと工夫させていこうと思う。

○ブレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・集団生活における基本をブレセカンドスクールで身に付けていたので、規則正しく生活することができた。また、友達と大きなトラブルを起こすこともなく、落ち着いて生活することができた。
- ・この行事を支えてくださっている人々がいることを理解し、かかわる方々に感謝の気持ちをもって接することができた。

○次年度にむけての反省・課題

- ・初日は、トイレなどが整っているキャンプ場で昼食をとり、その後、開校式を行う。
- ・子どもの健康面を考えてうがい薬を各宿に置き、こまめにうがいをさせた。その結果、風邪をひく子どもが少なかった。今後も続けていきたい。
- ・リンゴ園にトイレが一箇所しかないので、昼食は別の場所で食べるとよい。行程を変える。
- ・川体験の場所をキャンプ場の近くにし、魚つかみ体験を設定するとよい。

第四小学校

6月6日～6月13日(7泊8日)

○日程表

6月6日(金)		6月7日(土)		6月8日(日)		6月9日(月)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
8:30	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
13:30	戸狩到着、開校式	9:00	田植え体験	9:00	ハイキング	9:00	わらぞうり作り
15:00	はし作り	12:00	昼食	12:00	昼食、宿舎へ戻る	12:00	昼食、宿舎へ戻る
17:00	健康観察	13:30	課題別学習	14:00	課題別学習	13:30	お別れの会 お迎えの会
18:00	夕食	14:30	宿ごと体験	17:00	健康観察	14:00	自由散策
19:00	入浴	17:00	健康観察	18:00	夕食(バーベキュー)	17:00	健康観察
20:00	語らいの時間	18:00	夕食	19:00	入浴	18:00	夕食
	今日のまとめ	19:00	入浴	20:00	今日のまとめ	19:00	キャンプファイヤー
21:30	就寝	20:00	語らいの時間		手紙を書く	20:00	入浴
			今日のまとめ	21:30	就寝	21:00	語らいの時間
		21:30	就寝				今日のまとめ
						21:30	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

〔4月中旬～4月下旬〕オリエンテーションを行うとともに、6年生が5年生に昨年度総合的な学習の時間にパソコンで作成した「セカンドスクールの紹介ホームページ(校内web)」を見せながら、調べ学習のポイントや現地の生活の様子について説明を行った。こうした6年生との交流活動により、児童たちは学習意欲を増し、その後の熱心な課題追究活動に結びついた。

〔4月下旬～5月下旬〕5年生は各自、関心をもった事柄をもとに事前の調べ学習の課題を選択し、個々で課題解決に向けて取り組んだ。その際、以下の資料等を手がかりに進めていった。

- ・飯山市の社会科副読本
- ・観光パンフレット
- ・図書室や図書館の蔵書
- ・ホームページ
- ・観光協会の方に送ってもらった資料

<子どもたちが選択したテーマ>

- ・飯山の郷土料理
- ・飯山の生き物
- ・飯山の歴史
- ・飯山の植物
- ・飯山の観光
- ・飯山の特産物
- ・飯山の農業
- ・飯山の伝統工業(内山和紙)など

長野県飯山市(戸狩北条地区)

参加人数 男子42名 女子32名
計74名

6月10日(火)		6月11日(水)		6月12日(木)		6月13日(金)	
6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	林業体験	9:00	手すき和紙体験	9:00	焼き板工作	8:00	荷物整理、部屋掃除
12:00	昼食	11:00	飯山ジャンツェ見学	10:00	笹寿司作り	9:30	閉校式
13:30	飯山の歴史について	11:30	昼食	12:00	昼食	10:00	戸狩出発
14:30	課題別学習	13:30	飯山線の旅	13:00	雪国の暮らしについて	12:00	昼食
17:00	健康観察	14:00	西大滝ダム見学	14:30	セカンドスクールを	15:00	学校到着
18:00	夕食	17:00	健康観察		まとめよう	15:30	解散
19:00	入浴	18:00	夕食	16:00	宿の方々への手紙		
20:00	語らいの時間	19:00	入浴	17:00	健康観察・入浴		
	今日のまとめ	20:00	語らいの時間 今日のまとめ	18:30	お別れ夕食会		
21:30	就寝	21:30	就寝	19:30	感謝の交流会		
				20:00	今日のまとめ		
				21:30	就寝		

② 事後の学習内容

セカンドスクールから帰り、事前・現地で学んだことをパソコンにまとめる活動を行った。現地では課題別にグループを編成し、グループごとに学習を進めたが、事後はグループ内で事前や現地で学んだことを持ち寄り、作成するページを分担した。コンピュータを活用して作成したパワーポイントは、11月に予定しているセカンドスクール発表会にて、4年生へ公開する予定である。

現地で撮った画像はパソコンルームのサーバーの中に保存し、共有化を図ることで、今後広い範囲で活用できるようにした。

11月下旬のセカンドスクール交流会では、セカンドスクールでの学習のまとめとして、発表したいテーマごとにグループに分かれ、体験の様子や学んだことなどを発表した。体験活動を通して学んだことをグループごとにじっくりと振り返ったり、お互いの発表を見合ったりしながら準備や練習に取り組んだ。その後、現地の宿舎の方々が本校を訪れ、体育館で保護者も交えた『セカンドスクール交流会』を実施した。児童、保護者、戸狩の方々の三者が顔を合わせた心温まる交流会になり、戸狩の方々と心の交流がさらに深まった。

○特色ある活動内容

1、箸作り

開校式の後、各宿に分かれた児童達の最初の活動が箸作りである。これから毎日、食事を使う箸であり、セカンドスクールがいよいよ始まったという喜びと程良い緊張感もあって、夢中で竹を削っていた。分からない点やコツを宿の方が丁寧に教えてくれたおかげで完成した箸。形は整っていないくても、今も家で使い続けているという児童も多い。この体験で、児童と宿の方との距離が縮まり、ここから関係が深まっていく。

2、田植え体験

初めに稲作と田植えについての講義があり、待ちに待った田植えである。始めは「気持ち悪い」「ヌルヌルする」という声もあったが、しばらくすると「土の感触が気持ちよく感じるようになってきた」「楽しい」という感想に変わってきた。苗の間隔や足のぬき方などの指導を受け、泥にまみれながらも一生懸命に苗を植えていく。予定していた時間よりも早く終え、自分たちが植えた田を眺めた児童は満足そうな表情を浮かべていた。



【田植え体験】

3、宿ごと体験

各宿の方々がそれぞれの宿の特色を生かした体験学習を用意してくださる時間である。都会ではできない貴重な体験学習に児童たちは楽しく生き生きと取り組んでいた。メニューは以下の通りである。

(2日目) ・うちわ作り ・竹馬作り ・そば打ち体験 ・草餅作り ・豆腐作り
・バームクーヘン作り

4、課題別学習

事前の調べ学習で調べたことを確かめたりさらに発展させたりする場として、期間中3回設定した。飯山の農業・植物・生き物・川・池・郷土料理・飯山の歴史・観光などのグループに分かれて活動し、宿の方や地元の方々へのインタビュー、写真撮影、観察、山菜採りなど、それぞれの課題ごとに多様なフィールドワークを展開することができた。

5、ブナの森ハイキング

新潟との県境近くにある茶屋池周辺のブナの森を散策した。雪の重みにうち勝って育つブナのたくましさやブナの森の役割、さまざまな動植物の生態などについて、「森の家」の講師の方から詳しく話を聞きながら散策をした。子どもたちは、実際に木々の葉や実に触れながら、たくましく生きるブナの姿を目の当たりにすることができ、自然の知恵や不思議、尊さを感じていた。6月だというのに、森の中にはまだ雪が残っており、その雪解け水をブナが蓄え、麓の米作りに役立っているということを、目で見て確かめることができた。「空気がおいしくて感じる。こんなこと生まれて初めてだよ。」と語った子もいた。

6、わらぼうり作り

5年生の国語の教材に、『わらぐつの中の神様』という物語文がある。その中で、主人公のおみつさんが見よう見まねでわらぐつを編む場面がある。子どもたちが『わらぐつの中の神様』を授業で扱ったときに、わらぐつを編むための苦労を感じて欲しいと思い、この体験を設定した。また、子どもたちは昔の人が、稲刈りをしたあとに残るわらを捨てずにわらぼうりという

形にしていたことを知り、「昔の人たちはもったいないと思うようなことはしなかったのだろうね。」と話していた。宿のお父さん、指導員に教わりながら子どもたちは2時間以上座ったまま熱中してわらぼうり作りに取り組んだ。しかし、全員がその日のうちに完成したわけではなく、宿に戻ってから空いた時間を見つけては、わらぼうりを完成させようと頑張った。その中で、宿のお父さんや指導員との交流がさらに深まったように感じられた。

7、自由散策

子どもたちが飯山の自然を自由に観察し、記録する時間である。東京にはない植物や風景を観察し、観察カードにその時感じたことを記入しながら、飯山の自然を楽しむ時間となった。

8、林業体験

この体験は、気象条件に左右されてしまう漁業体験の代わりとして、今年度から実施したものである。まず、「森の家」付近の森を散策した。この森ではいろんな種類の木々や花、美しい池、そして動物、虫などの様子を見ることができる。グループごとに歩きながら講師の方々からそれぞれの名前や特徴などを教えていただいた後、今度は全体で森林を守ることの大切さや、具体的な方法について話を聞いた。チェーンソーを使って大きな木を伐採するところを見せていただいたが、大木が「ドシーン」と音を立てて倒れていく様子は圧巻である。どの木を伐採するか、また、倒す方向を考えていることを学んだ。そして今度は枝が密集して日光が当たらなくなってしまった場所で、児童がのこぎりを使って間伐体験を行った。体験が終わると、児童は自分たちが手入れをした一帯を見渡し、「森を守る手伝いができて良かった」と満足した様子であった。



【林業体験】

9、手漉き和紙体験

数少ない製紙工房の一つである阿部製紙工房で、伝統工芸品に指定されている内山紙を漉く体験を行った。「聞く・漉く・見る」の活動に分かれてローテーションで体験活動を行った。「聞く」では内山紙の歴史や原料、和紙の構造などの詳しい説明を聞き、「漉く」では漉き、プレス、乾燥の工程を体験してみる。「見る」では工房の中を見学し、原料のコウゾなどが和紙になるまでの過程を学習した。漉いた和紙は、セカンドスクールの後半に各自の手元に届き、子どもたちは手作り和紙の質感やあたたかみを感じていた。

10、お別れ夕食会

7日目の夜は、各宿で子どもたちの企画したお別れ夕食会が催された。宿の方々に対し、8日間お世話になった感謝の気持ちを子どもたちなりに工夫して表現する。準備は、毎日の自由時間を使い、班長中心に協力して進められる。劇や歌などの出し物、色紙や手紙、手作りのプレゼントなどを宿の方々には内緒で用意する。短時間のうちにそれぞれ趣向を凝らした出し物を用意できるのも、感謝の気持ちが子どもたちの心をつなげるからであろう。

11、涙のお別れ

最終日の朝、閉校式を終えた後、いよいよバスに乗り込む。子どもたちは、目を真っ赤にして宿のお父さんお母さんに別れを告げる。宿の方々も涙を流している。バスが出発すると、子どもたちは宿の方々が見えなくなるまで手を振る。その後、しばらくは会話もなくすすり泣きの声がバスの中に響き渡る。宿の方々への感謝の気持ちが言葉なしでも伝わってくる。子どもたちと宿の方々との心の繋がりは学校に戻ってからずっと続くのである。

○児童の感想

- ・私はセカンドスクールで、一つ成長したことがありました。それは、感謝の気持ちを感じることです。みんなと違って一週間ではなかったけど、多分感謝の気持ちは負けていないと思います。それほど別れるのはつらかったです。
- ・最後の夜にお別れ会をしました。歌はカントリーロードです。その後、歌っていると中にだんだんなみだが出てきました。そして、歌が終わり和室にもどったとたんにたくさんなみだが出てきて泣いてしまいました。
- ・ぼくがこの一週間できっと成長したと思った事は、友だちの事を考えるという事です。お母さん、お父さんの良い所は、お母さんはごはんがおいしく、ねる前に部屋を見回りに来てくれること、お父さんは色々な事を知っていて教えてくれるところです。
- ・ぼくは、帰りのバスに乗りこむときに泣きました。お昼のお弁当の中には一人一人にお父さんからの手紙がありました。とてもうれしかったです。また、冬休みなどにロッジかのお父さんお母さんに会ってお礼を言いたいです。
- ・西大滝ダム見学で、一番ショックだったのは、ダムの中のゴミの量です。カップラーメンの空いた入れ物やわれたバケツ、ビニールぶくろ、車のタイヤがあったのを見て、私たち人間が考えないといけない問題だと思いました。

○保護者の感想

- ・とても貴重な経験をたくさんさせていただき、多くを学んだ一週間だったようです。都会ではできない農業体験をして、お米やお野菜に興味をもち、食べ物を大切にすゝる気持ちが出てきたように感じます。
- ・自分の家から離れて、家族以外の仲間と集団生活を送ることは、大変貴重な体験だったと思います。直後に目に見えるように変わったということはないのですが、人間の営みについて考えるよい機会だったように思います。
- ・小学5年生という時期に、生活・人間関係などを学ぶすばらしい行事であると思う。また、家族を家族として考えるいいきっかけにもなったように感じる。きっと本人達にとっては一生忘れられない思い出になったのではないだろうか。
- ・セカンドスクールを通して、家ではできない経験をし、友達との関係でも我慢するところを学び、残さずに食べること、時間内に行動すること・・・など細かい点でも日常生活の中で生きているように思います。

○総合的な学習の時間との関連について

本校では、セカンドスクールを5学年の総合的な学習の時間の中心的な単元として位置付けている。1学期から2学期まで、87時間扱いの指導計画である。

◎セカンドスクールに関連した総合的な学習の時間等の指導計画（87時間扱い）（概略）

実施時期	指導内容と単元名（・は主な内容）
1学期	『出会い・ふれあい…セカンドスクール』4月～7月 「飯山ってどんなところ？」（25時間）

	・オリエンテーションと6年生からの校内webを使つてのレクチャー。 ・調べ学習テーマの選択と学習計画立案。 ・資料や取材活動、インターネットを活用した調べ学習。 ・「中間発表会」（4時間）
	「セカンドスクール」5月下旬～6月上旬（19時間） ・現地での体験や課題別学習による課題の追求。 ・自然や現地の方々との交流、新たな課題の発見。
	『セカンドスクールをまとめよう』6月～7月 「これまでの学習をまとめよう」（9時間） ・プレゼンテーションソフトの基本操作について学ぶ。 ・事前学習や現地で学んだことをグループごとにまとめていく。
2 学期	『セカンドスクールを伝えよう』（プレゼンテーション作り10時間・学習発表会18時間） ＜セカンドスクールプレゼン作り＞ ・ページの全体構造を考え、話し合う。 ・役割分担をし、担当ページの構成を考える。 ＜学習発表会＞ ・発表したい体験活動を考え、グループに分かれる。 ・グループごとに発表の内容や方法、発表の流れなどを話し合う。 ・役割分担をし、練習や準備をする。 ・グループの発表を互いに見合い、伝えるための工夫などについて話し合う。 ・4年生へ向けてセカンドスクールの発表を行う。
	『セカンドスクール交流会に向けて（学級活動）』11月（2時間） ・交流会の準備

○ブレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・児童が宿泊行事に対する見通しをもって準備や事前の学習に取り組んでいた。
- ・5分前行動や荷物整理など昨年度学習したことが、今回の集団行動や各民宿での生活に活かされていた。
- ・健康面や生活面で配慮を要する児童を事前に把握できたので、対応しやすかった。

○次年度に向けての反省・課題

- ・児童の実態を考慮しながら学習プログラムの改善を進めていきたい。その為にも現地の方々との連携をさらに深めていく必要がある。
- ・また、7泊8日の日程を考え、児童の負担にならない学習活動も考えていきたい。特に6日目の手漕ぎ和紙体験、飯山シャンツェ見学、西大滝ダム見学は、気温が高くなったことも影響しているだろうが、疲れた表情を見せる児童が多かった。
- ・迅速に計画が立案、実行できるよう、観光協会との連携、協力体制を要望していくことが今後継続して必要である。
- ・活動後、すぐに健康観察を行ってきたが、健康観察の意義をもう一度確認し、健康観察の時間を改めて検討していきたい。

第五小学校

5月27日～ 6月3日(7泊8日)

○日程表

5月27日(火)		5月28日(水)		5月29日(木)		5月30日(金)	
8:15	学校集合	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	学校出発	9:00	テーマ別班活動①	9:00	テーマ別班活動②	9:00	登山
11:30	川場村到着	12:00	民宿帰着	12:00	民宿帰着		雨乞山コース
11:35	開校式		昼食		昼食	13:00	下山
12:00	昼食	14:00	田植え体験	14:00	りんごの摘果作業		昼食
12:40	各民宿へ移動	16:30	民宿帰着	16:30	民宿帰着	14:30	民宿帰着
	民宿付近の散策	18:00	夕食	18:00	そば打ち等	18:00	バーベキュー(夕食)
14:00	手作り体験	20:30	日記・健康観察		夕食	20:30	日記・健康観察
18:00	夕食	21:30	消灯	20:30	日記・健康観察	21:30	消灯
20:30	日記・健康観察			21:30	消灯		
21:30	消灯						

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

【4年生1学期】

- ・5年生のセカンドスクール報告会に参加
→プレセカンドスクールや、セカンドスクールへの興味関心を高める

【4年生2学期】

- ・プレセカンドスクールの実施
りんご狩り体験
稲刈り体験

【5年生1学期】

- ・川場村の詳しい場所や地理的な特徴を調べ、川がたくさんあることや、果樹栽培が盛んなことを知り、自分が調べたいことを明確にしていた。
- ・活動班ごとに学習テーマを決めた。過去のセカンドスクールの発表をもとにして「どこで」「なにを」「どのようにして」調べるかの計画を立てた。
- ・実踏で撮影した写真を見て川場村で調べたいことを活動班ごとに相談し、川場村での活動への意欲を高めた。

群馬県利根郡川場村

参加人数 男子28名 女子23名
計51名

5月31日（土）		6月1日（日）		6月2日（月）		6月3日（火）	
6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:00	クラフトペン立て作り	9:00	川遊び、釣り体験	9:00	日本文化体験・茶道	8:30	荷物整理
12:00	民宿帰着	12:00	民宿帰着	12:00	民宿帰着	9:30	ホテルS L
	昼食		昼食		昼食		学習報告会
13:30	テーマ別班活動③	13:30	テーマ別班活動④	13:30	感謝の会準備	11:30	お土産購入
16:30	民宿帰着	16:30	民宿帰着		みんなで作ろう川 場の食事	12:00	昼食、S L見学
18:00	夕食	18:00	夕食			13:00	閉校式
20:30	日記・健康観察	20:30	日記・健康観察	18:00	夕食	13:30	川場村出発
21:30	消灯	21:30	消灯	19:00	荷物整理	16:00	学校帰着
				20:30	日記・健康観察		帰校式
				21:30	消灯	16:15	解散

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールのまとめとして、自分たちの課題について調べたことを模造紙にまとめたり、実物を準備したりして保護者や4年生に向けて報告会を行った。
- ・インストラクターや、民宿の方など、お世話になった方々へ御礼の手紙を書いて送った。
- ・セカンドスクールでの体験を作文にまとめ、パソコンで打ち込み、文集を作成した。
- ・稲を分けていただき、学年の田んぼを作ったり、バケツ稲として栽培したりして、成長を観察し、刈り入れまで行った。刈り入れ後は、脱穀機やとうみを使って稲の脱穀を行った。
- ・11月27日（木）に本校で、民宿の方を招いて交流会を行った。もちつきやけんちゃん汁作りを久しぶりに再会した民宿の方や保護者ボランティアの方々と協力して行った。

○特色ある活動内容

<課題追究活動>

1、テーマ別班活動

事前学習で個人の課題を基に各学級で活動班を編制し、その活動班ごとに大きなテーマを設定した。各班のテーマは以下の通りである。

- 1班：「川の上流・中流・下流のちがい」
2班：「川場のくだもの（ブルーベリー）」

- 3班 : 「川場の自然（山にある植物）」
- 4班 : 「川と魚（上流・中流・下流にいる生き物について）」
- 5班 : 「くだものと特産（りんご・ブルーベリー・こんにゃく）」
- 6班 : 「川場の自然」

川場村では、現地のインストラクターに支援をいただきながら、自分たちの課題を見つけ、追究していく活動を合計4回行った。初回の活動は、事前に児童のテーマをインストラクターに知らせておき、インストラクターの主導で行ったが、2回目からは、子どもたちが今後調べたいことを毎回指導員と相談し、インストラクターに伝えることで、内容に合った場所や活動を提案してもらった。子どもたちは毎回の活動を経て、自分たちが調べたいことをどんどん追究していくことができ、いきいきと活動することができた。

〈 活動例① 1班 〉

- 1回目・・・ 桜川上流で、川に住む生き物を採集し、図鑑などを用いて調べた。
- 2回目・・・ 桜川中流で、川に住む生き物を採集し、図鑑などを用いて調べた。
- 3回目・・・ 桜川下流で、川に住む生き物を採集し、図鑑などを用いて調べた。
- 4回目・・・ 桜川上流から下流まで観察し、これまでの班活動で発見したことや学んだことを確認した。上流から下流にかけて、棲んでいる生き物がどのように変化したかをまとめた報告会に向けてのまとめの活動を行った。

〈 活動例② 5班 〉

- 1回目・・・ 宮田果樹園にて、川場村の立地環境やりんご、ブルーベリーの栽培方法や種類などのお話を伺った。
- 2回目・・・ 宮田果樹園にて、なぜ川場村で果物の栽培が盛んになった歴史的背景や気候条件、注意していることなどについてのお話を伺った後、リンゴ園の見学に行った。
- 3回目・・・ ブルーベリーの栽培方法の話をお伺ったり、ブルーベリーの丘で観察をしたりした。また、これまでの話から疑問に感じたりしたことを質問したりした。
- 4回目・・・ 質問内容をまとめたり発表用の資料作りをしたりして、報告会に向けてまとめの活動を行った。

2、学習報告会

8日目には、ホテルS Lにて「学習報告会」を開いた。学習班ごとに、学習テーマと調べて分かったこと、調べ方などを模造紙2～3枚にまとめ、5分程度の時間で報告した。体験したこと、インタビューをして分かったことなどを絵や文章、実物を用意して伝えた。どの班も工夫してまとめ、わかりやすく報告することができた。また、1人1人が責任もって役割を果たすことができた。各民宿や、インストラクターの方にも報告会に参加していただき、発表を聞いてもらった。川場村での活動を通して、課題を発見し解決する力が伸びた。

＜全体での体験活動＞

1、手作り体験(おやき、ジャム、ソーセージ、コンニャク)

川場村での最初の体験として、地元の特産品を使った手作り体験を行った。子どもたちは、同民宿の中で、おやき、ソーセージ、ジャム、コンニャクの4つの食品のどれかを担当し、それぞれが担当した食品を民宿に持ち帰り、全員がすべての食品を味わえるようにした。身近な食品でも実際に作ることは初めての子が多く、「思ったよりも難しかった。」
「お店で売っているものと味が違い、おいしかった。」という声が聞こえてきた。

体験が終わり、全員が集合すると互いに持ち寄った食品を見せ合い、「こんな風に作るんだよ。」「そっちの体験も楽しそうだね。」など感想を伝え合っていた。



【手作り体験】

2、農業体験(田植え体験)

民宿の田んぼを借りて、全員で田植えをした。4年生の秋に、前年度の5年生が植えた稲を刈る経験をしており、「今度は自分たちが4年生のために田植えをする。」と言う子どももいた。

ほとんどの子どもが田植えをする経験が初めてで、裸足で田んぼに入ることに戸惑う子どもも見られた。しかし、実際に入ってみると「土の感触が気持ちよい。」「みんなでやると楽しい。」と言って意欲的に取り組んでいた。作業は大変だったが、先人の知恵や努力、食べ物大切さなど、身をもって実感した様子であった。

また、川場のお米がおいしいのは、空気がきれいなこと、水がよいこと、気温が適していることなどが関係していると教わり、川場村の自然や気候にも目を向けるきっかけとなった。

3、農業体験(りんごの摘果作業)

6民宿の子どもたちを3民宿ずつ2箇所のりんご園に分けて、りんごの摘果作業を体験した。3センチメートル程に生長したりんごの中心果だけを残して、周りの実を専用の鋏で摘み取っていく作業である。作業の内容を聞くと、子どもたちは「全部の実を大きくすればたくさんできてよいのに。」「なぜ、1つだけ残してあとは摘み取ってしまうのか分からない。」と、疑問を感じていた。しかし、りんご園の方の分かりやすい説明を聞くと「大きくておいしいりんごにするためにがんばろう。」と納得して活動に取り組んでいた。最初は少し緊張しながら活動していた子どもたちだったが、すぐに慣れてきて脚立の最上段に立って作業をする子どももいた。りんご園の方に「最上段に立って作業をするのは、勇気がいるので大人でも1日かかるんだよ。」と言われ得意気に作業をしていた。農家の方の工夫や努力について学んだり体験したりすることができ、貴重な経験となった。

4、郷土料理作り体験(そば打ち、うどん打ち、餅つき体験)

民宿のお父さん、お母さんに教えていただきながら、昔から地域で行っていたそば打ちやうどん打ち、餅つきなどを体験した。民宿のご家族の手慣れた様子を見て、驚きと楽しさで距離も一気に縮まった。

5、雨乞山登山

登山は、多くの子どもたちが楽しみにしていた活動の1つであった。残念ながら小雨が降る中の登山となった。山道がぬかるんで歩きにくい場所や登り坂がきつく大変な場所などがあった。

たが、息を切らしながらも「がんばろう」と声をかけ合ったり、手を取り合って助け合ったりしながら2時間かけて山頂まで登りきった。山頂は霧につつまれ景色を眺めることはできなかったが、子どもたちは「登りきったぞ！やった！」と、達成感に満ちた表情をしていた。山頂でお弁当を食べる予定だったが、雨のため下山し、ホテルS Lで昼食にした。

6、クラフト(ペン立て)

木製のペン立てキットを組み立てて作った。これまでの川場村の思い出、特産のりんごやブルーベリー、川や山などの自然を描いた。やすりで磨くととても美しく仕上がるため、民宿に戻ってからもやすりがけを一生懸命に行う子どもがいた。

7、自然体験・釣り体験(薄根川での活動)

薄根川の水を利用している釣り堀で、ニジマス釣りの体験をした。釣り体験が初めての子も多くおり、初めて見たブドウ虫に驚いていた。ブドウ虫をつり針に刺したり上手に釣ったりするコツを互いに伝え合いながら協力して取り組んでいた。釣り上げたニジマスはその場で焼いてもらい民宿でいただいた。「さっきまで生きていた魚だね。」「食べ残したら魚に悪いよね。」とつぶやく子どもがいて、「命をいただく」ということを学ぶ貴重な経験となった。

また、この日は好天に恵まれ川遊びをするのにちょうどよい日和となった。川の水は想像以上に冷たく、子どもたちはおどろきの声をあげながら、川に入った。前日の雨でかなり水量が多く流れも速かったため、活動は短時間で早めに切り上げた。水の流れを肌で感じたり、水温を計ったりしながら元気いっぱい川での活動を楽しんだ。テーマ別活動で川を課題としている子どもたちは、今まで活動してきた川との違いにも着目して活動していた。



【自然体験（薄根川での活動）】

8、日本文化体験(茶道体験・日本庭園見学)

あじさい、九輪草、つつじなどの美しい花、大きな山門、立派な日本庭園など趣のあるお寺で日本文化体験をした。子どもたちは、日本庭園を見学した後、茶道体験をした。事前に学校で作法を学んでいたことが効果的で、落ち着いていただくことができた。「またやってみたい。」「お茶がおいしかった。」などと、互いに感想を伝え合っていた。日本文化を体験するよい機会となった。また、お寺の小道に沿ってゆっくり歩き、美しい花々の観察もさせていただいた。落ち着いた雰囲気でも活動することができた。

○児童の感想

- ・手作り体験でジャムを作りました。思ったよりも簡単にできました。とてもおいしかったので家でも作ってみたいと思いました。普段できないことができてよかったです。
- ・田んぼに入ったときはぬるぬるして気持ち悪いと思ったけど、稲を植えるのはとても楽しかったです。4年生のためにがんばって植えました。
- ・セカンドスクールでは楽しかったことが、いっぱいありました。川遊び、ダム、田植え、山登り……。いろいろな事をしました。けんかもしてしまったけれど、みんなで笑ったことがすごく思い出に残りました。

○保護者の感想

- ・ 7泊8日という長期の宿泊学習は初めての経験だったので、しっかり身のまわりのことができるか心配でした。自分で自分のことをするという大切な経験ができたと思います。今後も、セカンドスクールで学んだことを家庭で生かしていけるようにしたいです。
- ・ 子ども同士で協力して生活するよい機会になったと思います。学校での学習報告会で、子どもたちが川場村で学んだことがよく分かりました。発表の仕方などを見ても、子どもが成長したことを実感できました。

○総合的な学習の時間との関連について

本校の5年生は、総合的な学習の時間において、「触れ合おう人と自然」という大きなテーマをもって学習を進めている。セカンドスクールでは、ファーストスクールでは味わうことのできない体験を中心に、自ら課題を設定し、追究する学習活動を展開した。

事前学習では、これまでのセカンドスクールでの発表資料を参考にして班ごとに課題を考え、課題を解決するための計画を立てさせた。また、実地踏査で撮影した写真を見せることで調べたいことをさらに明確にさせるとともに意欲を高めた。

日本文化体験では茶道体験をするので、本校のランチルーム和室を使い、茶道クラブの先生にお願いして、事前に作法を学んだ。

体験的な活動を通し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断できるような活動につなげていく。

○プレセカンドスクールの効果について

本校は、セカンドスクールとプレセカンドスクールを同じ場所で実施している。そのため、児童は、セカンドスクール実施の時点で既に川場村の地形や環境などに慣れ親しんでいる。そのことにより、学習計画を立てたり見通しをもったりすることがしやすく、スムーズに課題解決学習を始めることができた。

○次年度に向けての反省・課題

今年度から、昼食時に教員がそれぞれの民宿に分かれ、子どもたちと一緒に昼食をとるようにした。このことにより、民宿での子どもたちの様子や学習活動の進度など、これまで以上に実態を把握できるようになった。今後も続けていくとよいと考える。

これまでの班活動のテーマは「川（魚）」「くだもの（特産品）」「自然」の3つに分かれる。今年度もこれまで通り、民宿ごとに課題を設定した。しかし、活動に合った場所しか体験することができないため、様々な体験をさせたくてもなかなかできないでいた。来年度からは、民宿ごとにテーマを設定するのではなく、全ての活動を体験できるようにしたいと考えている。具体的には、これまでのテーマ別班活動をテーマ活動とし、児童を3グループに分け3つのテーマをそれぞれ1回ずつまわれるようにする。また、テーマ活動はお弁当を持っていくので、時間的にもゆとりをもって充実した体験ができるようになるだろう。

これまでの学習報告会は、学習のまとめに現地でかなりの時間を要していた。来年度からは帰京してからまとめ、現地では川場村の方たちとのお別れの会の場をもつようにしたい。

大野田小学校

9月18日～9月24日(6泊7日)

○日程表

9月18日(木)		9月19日(金)		9月20日(土)	
7:30	学校集合, 出発式	6:30	起床, 健康観察	6:30	起床, 健康観察
8:00	出発		洗面, 寝具整理		洗面, 寝具整理
11:30	昼食, 休憩(小布施PA) 戸狩到着, 開校式	7:00	朝食準備 朝食, 片づけ	7:00	朝食準備 朝食, 片づけ
13:30	各宿舎着		ハイキング準備		活動準備
14:00	荷物整理 はし作り 課題別学習1	8:30	集合, 茶屋池へ	9:00	課題別学習2
		9:50	鍋倉山ハイキング開始	12:00	昼食
17:30	夕食準備	11:30	昼食	13:00	和紙作り体験&伝統産業会館・ふるさと館見学
18:00	夕食, 片づけ	15:30	宿舎着		長峰公園
19:00	入浴 今日のまとめ	16:00	自由散策	17:00	宿舎着
		17:30	夕食準備	17:30	夕食準備
20:00	語らいの時間	18:00	夕食, 片づけ	18:00	夕食, 片づけ
21:00	就寝準備 健康観察	19:00	入浴 今日のまとめ	19:00	入浴 今日のまとめ
21:30	消灯	20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間
		21:00	就寝準備 健康観察	21:00	就寝準備・健康観察
		21:30	消灯	21:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・4年生3学期…「総合的な学習の時間」を使い、「セカンドスクールについて知りたいこと、教えてほしいこと」について当時の5年生(現6年生)に教えてもらい、セカンドスクールへの興味関心を深めた。
- ・5年生1学期…セカンドスクールの実施場所である長野県や飯山市について東京と比較しながら学習を進めた。また、戸狩より稲の苗を送っていただき、学校田で稲作りに取り組んだ。現地での課題学習のためのグループを作り、グループ課題を追究し、現地で知りたいことをまとめた。
- ・5年生2学期…現地での生活についてのオリエンテーションを行い、係ごとの役割分担や打合せを行った。また、社会科の米作りと食育の観点から、学校田での稲の生長の様子を観察し、米についての学習を、戸狩での稲刈り体験へとつなげた。

長野県飯山市(戸狩五箇地区)

参加人数 男子62名 女子38名
計100名

9月21日(日)		9月22日(月)		9月23日(火)		9月24日(水)	
6:30	起床,健康観察 洗面,寝具整理	6:30	起床,健康観察 洗面,寝具整理	6:30	起床,健康観察 洗面,寝具整理	6:30	起床,健康観察 洗面,寝具整理
7:00	朝食準備 朝食,片づけ	7:00	朝食準備 朝食,片づけ	7:00	朝食準備 朝食,片づけ	7:00	朝食準備 朝食,片づけ
8:00	掃除	8:00	部屋の片づけ	9:00	宿別体験活動 郷土料理作り	8:00	大掃除 荷物整理
9:00	宿別体験活動		活動準備				
11:00	もちつき	9:30	寺めぐりスタンプラリー	12:00	昼食	9:00	宿の方へのお礼
12:00	昼食		一大聖寺スタート	13:00	課題別学習まとめ	9:30	集合,閉校式
13:30	集合・引率者交代 課題別学習3	11:30	飯山ジャンプ台ゴール	15:30	お別れ会準備		戸狩出発
		12:30	昼食	16:30	夕食準備		
17:30	夕食準備	13:30	稲刈り	17:00	お楽しみバーベキュー夕食準備	12:30	昼食,休憩(横川SA)
18:00	夕食,片づけ	16:30	お別れ会計画				休憩(高坂SA)
19:00	入浴 今日のまとめ	17:30	夕食準備		夕食,片づけ	15:30	学校着,帰校式
20:00	語らいの時間	18:00	夕食,片づけ	19:00	語らいの時間		解散
21:00	就寝準備 健康観察	19:00	入浴,今日のまとめ		お別れ会		
		20:00	語らいの時間	20:00	入浴,今日のまとめ		
		21:00	就寝準備,健康観察	21:00	就寝準備,健康観察		
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯		

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの課題別学習グループごとのまとめと発表を行った。プレゼンテーション作りをし、お互いに学習してきたことを発表し合った。発表会は、学年全体で行った。
- ・宿別新聞を生活班ごとに作成、展示した。お世話になった方々へお礼と感謝をこめて宿の方々へのメッセージも書いた。
- ・課題別学習のまとめと宿別新聞は、3学期の「4年生に伝えよう」の資料にも利用する。
- ・セカンドスクールでの体験をもとに、「セカンドスクールから学んだこと」や「思い出の名場面・珍場面」として作文に書いた。
- ・稲刈りで収穫したお米は、家庭科の調理実習でおにぎりや粉などにして、活用する予定である。

○特色ある活動内容

＜課題別学習＞

大野田小学校では、セカンドスクールを総合的な学習の時間を中心とした学習の場と地域の人々とのふれあいを大切にした生活の場と考え、その計画を立て、実施してきた。その中でも、児童が自らの課題をもってそれを追究する活動の時間を保証することが大切であると考え、今年は4回（4日間）の活動時間を設定した。1回目は現地での講師として依頼した宿の方々の顔合わせと次回の予定の確認、2回目・3回目はフィールドワークを通しての課題別学習活動、4回目は学習したことをまとめるという計画である。

課題作りは、飯山市や戸狩はどんなところだろうかという投げかけから始まり、社会科や理科の学習とも関連させながら様々な視点から児童が興味を持ったテーマで調べ学習を進めた。その後、児童の設定した課題をどのように追究、解決していけるか、どのような活動ができるのかを現地との連絡や実地踏査などの情報をもとに、追究可能な8つの課題に集約した。また、現地での講師を宿泊する宿の方々に依頼することにした。様々な分野で経験の豊富な宿の方々を講師に招くことは児童にとのふれあいの場を増やし、また宿の方のもつ専門的な知識や経験を存分に発揮してもらうよい機会と考えた。

課題グループは以下の8つである。

- ブナの森・・・ ブナの木・森の観察、山や森の生き物 など
- 川・・・ 千曲川の様子・水質・水温、魚や生き物、ダムについての学習 など
- 雪国の暮らし・・・ 暮らしの工夫、スキー・食べ物・方言等の文化 など
- 観光・・・ 観光客の変化、オリンピックについて、温泉と観光 など
- 歴史・文化・・・ 飯山の歴史、城・寺の歴史、伝統工芸品調べ など
- 農業・特産物・・・ 地元の農作物について調査・収穫、きのこ工場見学 など
- 米作り・・・ 水田・機械・カントリーエレベータの見学、品種の違い など
- 草花・虫・・・ 戸狩の草花の観察、スケッチ、押し花、 など

時間に余裕をもって活動計画を立てたため、児童も十分に自分の課題に対しての追究・体験ができ満足感も得ることができた。また、マイクロバスを使うことによって活動も徒歩で行く近辺に限られることなく、ちょっと足を伸ばすことが可能でより広く課題に迫ることができた。



【農業・特産物グループ：農作業体験】

＜自然体験活動＞

鍋倉山でハイキングを通して自然に親しむ活動を行った。この付近は、今も残る貴重なブナの原生林として地域の人々から大切に守られてきた大自然である。その大切な自然に直接ふれあい、自然から大いに学びたいと考えた。鍋倉山の「巨木の谷」、その中でもひとときわその存在感を現す樹齢400年ともいわれる「森太郎」「森姫」やわき水等、自然の大きさ、豊かさを肌

で直接感じる事ができたようである。インストラクターの方には、時々立ち止まって、植物や動物の解説を丁寧にしていただき、また、この森を守るために活動している人々の苦労や想いも交えて話していただき、単に歩くだけではない、自然を見て触れて、感じ、学ぶ活動とすることができた。天候にも恵まれ、全児童が参加し、全行程を歩き通すことができた。自然が人間の心に与える影響の大きさを改めて感じることでできた活動である。

＜宿別体験活動＞

9つの宿舎に分宿することは、それぞれの宿間で共通にさせていただくことも数多くあるが、宿それぞれの良さをもっと生かしながら児童に接していただくことも大切である。この宿別体験学習は宿ごとにそれぞれ得意な分野を生かして児童に指導していただき、より宿の方と児童の距離を身近にする良い場である。二度に分けての活動機会を設けているが、今年は、食育の観点から二回目はどの宿も郷土料理を取り上げ、作る段階から児童が関わり、食材や地元の食文化の話を宿の方としながら活動できるようにした。

実際の体験活動は以下の通り。

宿別体験活動実施内容・・・焼板工作、草木染め、ペン作り、うちわ作り、名水巡り、おやき作り、手打ちそば、ジャム作り、ちまき作り、笹寿司作り、天井焼き作り、こねつけ、芋なます作り、にらせんべい

＜学習体験活動＞

①農業体験(稲刈り体験)



【稲刈り・脱穀の様子】

社会科の食料生産＜米作り＞の学習における学習として、稲刈りを体験した。戸狩は有数の米どころであり、その広大な水田での稲刈りは貴重な体験である。今ではほとんどが機械化された中で、昔ながらの手を使っての作業であり、長時間中腰になっての姿勢などで、人の苦労を身にしみて体験できた。その場で脱穀の体験もし、子どもたちは農作業の学習とともに勤労の満足感も得ていたようである。

②飯山まちめぐり(寺めぐりスタンプラリー)

北飯山駅近くの大聖寺をグループごとにスタートし、飯山市内の寺や雁木通りを通って飯山ジャンツェ（ジャンプ台）をゴールとするオリエンテーリングを行った。問題を解きながらまちめぐりをしていくうちに、寺のことだけではなく雪国の暮らしの工夫も探すことができた。ジャンツェでは、ジャンプ台に登って町を見渡すなど、貴重な体験ができた。

○児童の感想

・飯山では、宿の周りにかえるがたくさんいたからびっくりしました。夜、宿の人と一緒に見た星がすごくきれいでした。川遊び、山登りや、郷土料理作り、はし作りにジャム作りなど、

普段できないことがいっぱいできたので良かったです。たくさんのことをみんなと一緒に協力できて、すごく楽しい1週間でした。東京と飯山との違いに、気づくことができました。

- ・鍋倉山ハイキングでブナの巨木（森姫・森太郎）に会えてうれしかったです。年々、弱ってきていると知って、自然を大切にしていこうと思いました。
- ・ぼくは、稲刈りの大変さを体験したことで、家でご飯を1粒も残さなくなりました。帰ってから、お父さんとお母さんからほめられました。班のみんなでついたおもちは、とってもおいしかったです。
- ・セカンドスクールではいろいろなことを学びました。特に課題別では、雪国のようすや苦労などを知りました。また、宿のお父さんお母さん、友だちと生活する中で、あいさつの大切さや友だちと協力する大切さも学びました。郷土料理のいもなますや笹寿司、手打ちそばの作り方も学びました。またみんなで、行ってみたいです。
- ・私の一番の思い出はお別れ会です。きもだめしで自分はおどかす方なのに、とても怖かったです。お別れ会や閉校式では、お世話になった宿の方と別れるのが寂しくて大泣きしました。友だちもみんな泣いていました。お別れは、とても悲しかったです。

○保護者の感想

- ・東京ではできないことがいっぱい経験できて「最高～！」と笑顔で話してくれました。友達との生活もとても楽しかったようで、また行きたいと言っています。宿の方にも大変良くしていただいたようで、お料理もとてもおいしかったそうです。今度は、家族で出かけてみたいと思います。
- ・友達といっぱいけんかもしたけれど、6泊7日とても楽しかったようです。いろんな体験や、一生忘れられない楽しい思い出がたくさんできたと、満足そうに話してくれました。

○総合的な学習の時間との関連について

前述の特色ある活動内容でもふれたように、総合的な学習の時間の活動が中心となるように活動内容を計画してきた。セカンドスクールのテーマを『調査・体験・ふれあい in 戸狩』としたのもこのセカンドスクールを総合学習としての重要な時間と位置付けているからである。児童にとってもこの課題設定、課題解決については、自分たちがこれから一週間滞在する場所という認識から、興味・関心も高く、調べる意欲も旺盛であった。

課題を決定し、それに合わせて現地での課題別学習グループを編制するというのは、様々な課題をもつ児童に対して、どれだけその活動を保証できるかが課題であるが、宿の方々の可能な限り対応してあげたいという気持ちと、指導者の数の制限などを考慮して、今年度も前年度同様8つのグループによる活動とした。

現地での活動の中で特に力を入れたのが、この課題別学習の時間である。4回を通しての活動は、これまで児童が調べたことや現地でやってみたいことを十分に体験可能にすることができたと思う。もちろん、そのためには現地での講師である宿の方々の協力が不可欠であるのはいうまでもない。課題解決の向けての活動だけでなく、そこに生まれる地域の人とのふれあい

も忘れてはならない。大野田小学校では総合的な学習の中では周りの人々や物とのかかわり、ふれあいも大切な学習の要素と考えている。その意味でも、セカンドスクールでお世話になる宿の方とのふれあいは大きなものである。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

親元を離れ、自分で自分の身の回りのことをするという経験が、宿舎での生活に生きていた。今年度、学年全員がセカンドスクールに参加できたことを喜ぶたい。

○次年度に向けての反省・課題

セカンドスクールを戸狩で行うようになってから9年目を迎え、大野田小学校としての活動のあり方はある程度確立してきている。活動をより一層充実させていくことは必要なことであるが、活動を増やすことで余裕を無くすことは児童の生活を圧迫してしまうので、今後とも活動内容と時間のバランスを考えつつ計画を立てていきたい。

児童にとって親元を離れての一週間の宿泊体験は貴重である。体験を通しての学びはもちろん、家族とは異なる大人や友達との共同生活は初めて体験する子も多い。自然とのふれあいに日常の学校生活では見たことのない意欲的な表情を見せたり、夜更かしや朝食を摂らないことが日常化していた子が、規則正しい生活から、生き生きとした表情に変わったり、中には、これまで食べられなかったものが食べられるようになったりした子もいる。これらは、2、3泊の宿泊学習ではなかなか起こりえない、長期宿泊行事なればこそのことであろう。

一方で、限られた狭い人間関係の中で長い時間を過ごすことは、普段の学校生活でのトラブルとは違って、逃げ場のない分、大きなストレスも生む。トラブルを乗り越えられれば、さらに関係を深めることができるが、場合によっては、そのしこりがセカンドスクール終了後の学校生活にも影を落とすことになり、また、その影響は深刻であったりもする。今年度はそういうことがなくほっとしたが、学校生活とは違い、担任はその場に立ち会っていないことが多く（物理的に困難）、教師も保護者も事情や経緯を正確に把握できずにいることも十分考えられる。その解決には宿の方や指導員の支援が必要不可欠であるが、指導員は一週間朝から晩まで児童とともに過ごすハードさから心身ともに疲れてしまうのが実情である。指導員の負担を軽減しようとすると、今度は宿の方への負担が増えてしまうことになる。

長期宿泊の良さを生かしつつ、こうした困難やリスクを減らすには、指導員の増員が必要かと思う。今年度は、個別対応に必要な児童のために、宿によっては複数の指導員を配置したが、実施後の指導員の声からも複数配置は指導員の心身両面での負担の軽減につながるということがわかった。結果的に児童にとっても生活指導面での安心感につながっており、児童の発達段階から各宿男女一名ずつの指導員の配置が望ましい。また病人やけが人の対応に追われ、看護師の仕事は毎年激務である。児童数、分宿数に応じた看護師の人員配置も昨年同様、お願いしたい。

セカンドスクールの充実を図るには、事前、事後の現地との細かな連絡が不可欠であり、学習面でも現地だけでなく事前事後かなりの時間や準備を要する中で、計画や報告等の文書作成や事務処理は大きな負担であった。提出文書や事務処理の簡略化を強く望むところである。

境南小学校

9月17日～9月24日(7泊8日)

〇日程表

9月17日(水)		9月18日(木)		9月19日(金)		9月20日(土)	
7:00	集合	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
7:15	出発式・出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:10	双葉SA	8:45	朝会	8:45	朝会	8:45	朝会
10:55	姥捨SA	9:00	稲刈り・はぜかけ	9:00	ハイキング	9:00	里山体験
12:15	飯山着、昼食(民宿)		落ち穂拾い	11:10	とんだいら着		名泉腹ぐすり清水
13:45	開校式	12:00	昼食	12:00	昼食(お弁当)	12:00	昼食
14:00	稲刈り	13:30	戸狩小との交流	13:15	とんだいら発	13:30	水辺の生き物観察他
16:00	夕会	16:10	夕会	15:30	夕会	16:00	夕会
16:20	検温・入浴	16:30	検温・入浴	16:20	検温・入浴	16:20	検温・入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	飯山の伝統文化	19:00	民話を聴こう	20:00	手紙書き	19:00	飯山の自然
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯

〇セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・4年生のときに、当時の5年生のフィールドワークの発表会に参加し、飯山についての関心を高めるとともに知識を得た。
- ・5年生の1学期、戸狩の育苗センターで育てた稲の苗を送ってもらい、学校の水田へ田植えを行った。～しろかき、草取り、水の管理など
- ・交流校である戸狩小学校へ、顔写真入りの自己紹介カードを作成して送った。
- ・学級を二つに分け、それぞれの宿で7泊8日生活すること、集団生活の中で相手の立場を考え、協力、助け合いすることなどを説明し、いろいろな友達との絆を深められるようにした。
- ・事前学習は、あえて多くは行わず、現地での発見や疑問を大切にするようにして、事後の学習に重きを置くようにした。
- ・セカンドスクール期間中、飯山での食生活に使用する竹の箸と箸入れを図工の時間に作成した。

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールの感想の作文を書いた。
- ・民宿、戸狩小学校、指導員、看護師さんにお礼の手紙を書いた。
- ・戸狩から送っていただき、苗から育てた稲の「刈り取り」、軍手や割り箸を使った「脱穀」などの体験を行った。今後、すり鉢とソフトボールによる「もみすり」や一升瓶と棒による「精米」などの体験を行い、3学期には学校で収穫したお米と飯山産の白米をブレンドし、おにぎりにして食べる予定である。
- ・セカンドスクールでの体験を基に各自でテーマを絞り、自分で調べたことを加えてまとめた新聞を作成した。3学期には、4年生児童、5年生保護者、校内の教員らを対象とした、セカンドスクール発表会を行う予定である。

長野県飯山市(戸狩堀之内地区)

参加人数 男子51名 女子47名
計98名

9月21日(日)		9月22日(月)		9月23日(火)祝		9月24日(水)	
6:00	起床	6:00	起床	7:00	起床	6:00	起床
7:00	朝食	7:00	朝食(雨天:朝会中止)	8:00	朝食	7:00	朝食
8:45	朝会	9:00	笹寿司作り	9:30	朝会		清掃
9:00	畑仕事体験	11:15	昼食	10:00	やしょうま作り	9:15	閉校式
11:30	餅つき・昼食	12:30	ブナ林散策	11:15	昼食	9:30	戸狩発
13:30	農業体験	15:00	各宿着	12:30	ボランティア活動	12:15	昼食(双葉SA)
	千歯こき・脱穀	15:30	農業体験	14:00	お神楽と舞い見学	13:15	双葉SA発
16:00	夕会		野菜の間引き・収穫	15:20	焼きいも作り・夕会	14:30	石川PA発
16:20	検温・入浴	17:30	夕食	16:20	検温・入浴	15:30	学校着
18:00	夕食	19:45	夜祭り見学	18:00	夕食	15:45	帰校式
19:00	お別れ会準備	20:45	検温・入浴	19:00	お別れ会	16:00	解散
21:00	消灯	22:00	消灯	21:00	消灯		

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、ハイキング

3日目にとんだいらハイキングを実施した。民宿から歩いて30分程の「星降るレストラン」に集合し、おおまかな行程を確認した後、いよいよ出発。この時点で体調が優れない児童は、宿舎のマイクロバスで昼食の場所まで送ってもらうことにした。なだらかな舗装道路を足取りも軽く進んでいく。最初の休憩で一匹のスズメバチが飛んでくる。児童には、事前に「スズメバチが近づいても驚かず、絶対に手で払いのけたり、逃げたりしないこと!」と話していたので、静かに対応でき、何ごともしこらなかった。汗をタオルで拭き取った後、再び歩き出す。途中、アスパラガスの赤い実を食べたと思われるイノシシのフンや産卵間近のオオカマキリを多数発見。スキー場リフト降り場で最後の休憩を取る。ゲレンデから吹き上げてくる風が心地よい。間もなくとんだいらに到着。少し遊んでから、民宿の方々が運んでくれた、できたてのおむすびを食べる。お腹が空いていたこともあり、とてもおいしい。さらに民宿の方が、近くの川で冷やしておいてくださったトマトとキュウリをいただく。新鮮でみずみずしい味に児童も引率者もただ感動。帰りは疲れもあったが、みんなで歌を歌いながら歩いていった。

2、里山体験(名泉腹ぐすり清水)

天候の関係で稲刈りを優先し、4日目となった里山体験。快晴に恵まれ、信濃平の顔戸にある湧き水をめざして歩く。田んぼの中を走る一本道を約一時間歩いて、名泉腹ぐすり清水に到着。その昔、通りがかりの腹痛だった旅人が、この水を飲んで腹痛が治ったというところから「腹ぐすり清水」と名付けられたそうである。一年中、水温9度の水。快晴で汗ばむぐらいの天気には、水温9度の水はとても冷たく感じ、児童は飲んだり顔にかけたりした。水が湧き出ているところは一カ所であるが、水量がとても豊富で、水筒を差し出すと一瞬で満杯になった。そのため、98名の児童がいても、それ程待つことなく順番に水を飲むことができた。

3、ブナ林散策

6日目、雨がやっと上がってきたので午後からブナ林散策へ出かける。雨かっぱを着込んで現地のインストラクターを先頭に茶屋池の周囲を歩く。雨上がりということで霧が出て視界が悪かったものの、時折木々の隙間から日も差してきた。夏の実踏の時よりは少なかったもののブナ林名物巨大ナメクジにも遭遇でき、児童も大喜びする。所々にいろいろな種類のキノコが生えており、児童は見つかるたびに「これ食べられるかな?」とつぶやいていた。

<学習体験活動>

1、農業体験(稲刈り、脱穀)

1日目の午後と2日目の午前に稲刈りの体験をした。突き抜けるような青空の下、黄金色の絨毯が広がる稲田の前で、まず、株のつかみかたや鎌の使い方の指導を受ける。そして、宿ごとに別れ、場所を確認してから稲刈りを行った。最初は、おそるおそる鎌を使っていた児童も1日目の終わりには、稲穂の切り方のこつもつかみ、「一発で刈り取れると嬉しい。」「刈る音が快感。」等の声も聞かれるようになり、稲刈りに夢中になっていった。刈り取った稲は、民宿



【刈り取った稲をひもでむすぶ】

のお父さんに教わった通り、二つの束を交差させ、その重なったところをひもで結んでいく。かなり頑張った気がしたが、約1.5反ある稲田には、まだ半分以上、金色の稲穂が残っていた。

2日目、昨日は戸狩に着いてすぐの稲刈りで、児童もかなり疲れたと思われるが、しっかり睡眠をとったせいか、どの子も元気を取りもどす。全体の集合時間よりも早く稲田に出て、稲刈りを始める班もあった。途中はなぜかけのやり方を聞いた時に少し休んだものの、

1日目よりも、どの児童も集中して稲刈りを行い、最終的に約1.5反全て刈り取ることができた。2日間に及ぶ稲刈りで、児童は刈り取った稲束を結ぶ難しさや、同じ姿勢を続けることでの腰の痛さを体験し、農作業の苦労を味わうとともに、なぜかけを通して収穫の喜びやみんなで協力して一つのことをやり遂げる達成感を味わった。民宿の方から、今回5時間以上かかった稲刈りが、コンバインを使うと、約10分ほどで終わる、ということを知り、機械の便利さと手作業による稲刈りの大変さを改めて感じた。

5日目の午後には、自分たちで刈り取った稲束を脱穀した。昔ながらの千歯こきによる脱穀や足踏み脱穀機による脱穀を一人一人が体験した。体験を通してそれぞれの違いや機械の工夫に気づき、ここでも改めて手作業の大変さを感じた。

2、農業体験(野菜の間引き、収穫)

5～7cm程度に育った野沢菜の間引きにも挑戦。民宿の方から、根元からつまむ、隣との間を約10cm空けるなどの注意を聞いて作業開始。葉を痛めないよう、丁寧な作業が求められる。

間引いた野沢菜は、夕食のみそ汁の具となった。その他、ナス、トマトなどの野菜の収穫も体験する。

＜生活体験活動＞

1、やしょうま作り

古くから伝わる郷土料理の一つである「やしょうま」。今年度初めて作ることにしたが、毎日食べているお米の粉を使った素朴な料理である。作り方は、まず、こね鉢に米粉、砂糖、塩を入れてよく混ぜる。そこに熱湯を入れて5～6分よくこねる。最初は、熱く危ないので生地が少し落ち着くまで大人がやり、後半、順番を決めて児童が生地をこねていった。その後、生地を半分に分け、一方



【郷土料理 やしょうま作り】

に固くゆでた大豆、もう一方にはごまを入れて、よくこね、細長い棒状にする。蒸し器に入れて30分ほど蒸したらうちわであおぎ、つやを出す。ラップに包んで形を整えた後、ピンと張った糸で約1cmくらいの厚さに輪切りして完成。ほのかに甘味があり、ういろうのような食感のやしょうまは、とても素朴な味であったが、児童にも好評だった。

2、笹寿司作り

もう一つの郷土料理であり、笹の防腐効果をうまく利用した「笹寿司」。上杉謙信の戦陣の携帯食として知られているが、昨年度と同様に民宿のお母さんのご指導のもと、一人一人が個々に笹寿司を作り、食べた。ご飯の上にのせる具は、自分でトッピングをした。かんぴょう、しいたけ、ぜんまいなど、普段食べ慣れないようなものでも、笹寿司では問題なく食べていた。

3、餅つき

5日目、児童たちの手で杵と臼を用いて餅つきを行った。ついた餅を丸めて、きなこやごまをつけて、昼食とした。初めて餅つきをする児童も多く、杵にふり回される場面もあったが、温かく、ねばり気があるつきたての餅の味は、忘れられないものとなった。

＜地域の人々とのふれあい＞

1、戸狩小学校との交流会

2日目に戸狩小学校との交流を行った。交流活動は今年で9年目となるが、内容は毎年少しずつ変わってきている。実地踏査の際、戸狩小学校と打ち合わせを行い、今年度は、戸狩小学校の児童と境南小学校の児童とが一緒になってウォークラリーを実施した。当日は、始めの会の後、グループごとに集合し、自己紹介からスタートした。こちらからは事前に顔写真入りの

自己紹介カードと班ごとの名簿を送ってあったので、すぐに名前呼び合う姿も見られた。ウォークラリーは途中5ヶ所で課題をクリアしてゴールするというものだが、児童は戸狩小の子と協力し、戸狩の風景も楽しみながら、ウォークラリーに参加することができた。予定時間を少しオーバーしたものの、戸狩名物「とがりんとう」の賞品も付いて、児童は大満足だった。

2、民話を聞く

地域の語り部の方に、児童が泊まっている民宿まで来ていただき、飯山に伝わる民話を聞いた。2つの民宿がペアとなり、学級ごとに集まって、お話をうかがった。学校で、毎週金曜日の朝に、保護者の方に読み聞かせをしていただいていることもあり、しっとりとした雰囲気の中で、民話を味わい深く聞くことができた。気がつくやうに予定の1時間となっていた。

○児童の感想

<自然体験>

- ・ハイキングは、暑くて坂もきつかったけど、行きも帰りもあきらめなくて歩いた。
- ・ハイキングの途中、スキー場の上から見えた景色は本当にきれいだった。
- ・飯山とおばあちゃんのいる秋田とでは、同じ田舎でも虫の種類と数が全然違っていた。
- ・ブナ林では、空気が澄んでいて気持ちがよかった。巨大ナメクジは、本当に大人の指ぐらいあってびっくりした。

<学習体験>

- ・稲刈りは最初大変だったけど、慣れてくるとおもしろかった。束にして結ぶのがうまくできなかったけど、友達とやったらしっかり結べた。
- ・たくさんのはぜかけを見たら、「頑張ってたよ。」と思った。落穂ひろいも頑張った。
- ・東京ではできないたくさん体験をしたので楽しかった。

<生活体験>

- ・やしょうまの味は、ういろうのようだった。糸が包丁の代わりになるなんて初めて知った。
- ・つきたてのおもちがこんなにおいしいなんて、今まで知らなかった。
- ・餅米は、箸でつついていると餅のようになったけれど、白米では、だめだった。

<地域の人々とのふれあい>

- ・会うまでは心配だったけど、戸狩小の子と友達になれて嬉しかった。
- ・チェックポイントで先生が出す問題に答えるのが大変だったけど、おもしろかった。
- ・(ウォークラリーの賞品でもらった)「とがりんとう」はリンゴの味がしてとってもおいしかった。戸狩に行ったら、ぜひまた食べたい。

<その他>

- ・民宿のお父さん、お母さんには、飯山のことや笹寿司の作り方など、いろいろなことを教えてもらった。民宿の料理はとてもおいしくたくさんおかわりをした。手伝いも楽しかった。
- ・毎日皿洗いをしたら、お母さんに「ありがとう。」と言われて嬉しかった。
- ・宿のお父さんに「〇〇は、返事が大きくていいな。」と言われたので、これからも続けたい。
- ・班のまとまりもよかったから、7泊8日気持ちよく過ごすことができた。
- ・みんなと仲良く過ごせた。時にはけんかもあったけど、みんなのおかげで仲直りできた。
- ・宿での生活はとても楽しく、お母さん、お父さんは、とても優しくった。いつも甘えてしま

って、本当の家族みたいで別れるのがすごくつらくて号泣してしまった。

- ・セカンドスクールは、7泊8日という長い期間なので、行く前の準備がとても大変だったけど、とても楽しかった。

○保護者の感想

- ・昇降口に「かわら版」が張り出されたり、学校のホームページが毎日更新されたりしたので、セカンドでの子どもたちの様子がよく分かり、保護者として安心できた。
- ・体調不良中の参加で心配したが、もともと虫が好きで「ヘビの抜け殻があったんだよ。」と、とても満足そうだった。こちら（東京）ではできない体験をさせていただいた。
- ・4日目にホームシックになったようだが、その時だけですんだ。今は、「また行きたい。」と言っている。セカンド後も、洋服を自分で決めて着るようになった。
- ・毎日が楽しく、民宿での別れの時は泣いたらしい。本当にいい体験をさせていただいた。
- ・セカンドを終えて、大きく変わったのは、時間を守れるようになったこと。これは集団生活で寝起きを共にするからこそその成果で、家では教えきれないことを教えていただいたと思う。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・1学期・・・「米作りにチャレンジ」の学習テーマのもとに
 - 学校水田を活用してしろかき、苗代、田植え、草取り等の活動
- 「探検・発見・感動 飯山」の学習テーマのもとに
 - 戸狩小学校に送る、顔写真入り自己紹介カードの作成
 - セカンドスクールでの仮テーマの設定
- ・2学期・・・「探検・発見・感動 飯山」の学習テーマのもとに
 - 現地における体験活動の実施
- 「米作りにチャレンジ」の学習テーマのもとに
 - 現地やファーストスクールにおける稲刈り、はぜかけ、脱穀等の活動
- ・3学期・・・「米作りにチャレンジ」の学習テーマのもとに
 - 育てたお米を使って、おにぎりを作って味わう
- 「探検・発見・感動 飯山」の学習テーマのもとに
 - 来年度に向け、4年生や保護者に向けての発表会の実施

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・集団生活に対する不安が解消され、精神的にゆとりをもって準備段階から取り組むことができた。支援の必要がある児童も、プレでの経験が自信となって全日程参加できた。
- ・地元や指導員の方々とすぐに打ち解けて、様々な活動に積極的に取り組んだ。

○次年度に向けての反省・課題

- ・今年度も、昨年度に引き続き、全ての民宿に対して、指導員を二人ずつ配置していただいたのでよかった。民宿ごとに男女の指導員を配置できたので、配慮を必要とする児童もいたが、きめ細かい指導や対応をすることができた。

本宿小学校

6月3日～ 6月10日(7泊8日)

○日程表

6月3日(火)		6月4日(水)		6月5日(木)		6月6日(金)	
8:00	学校出発	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
9:00	練馬 I C	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
10:00	上里 I C	9:00	泉台小5年生との 交流会・開会式		片付け・準備 能生へ出発		片付け・準備 9:45 黒岩山ハイキング*
11:00	千曲川 I C		全体交流	9:00	泉台小との合流		出発
12:30	豊田飯山 I C		グループ交流	10:30	地引網体験	12:00	昼食
13:00	開校式	11:30	昼食〔各民宿〕	12:00	昼食	13:00	下山
13:30	民宿着	12:30	農業体験	13:00	能生漁港見学	14:00	農作業体験
14:00	もちつき 箸づくり		田植え		実習船見学		各民宿の畑にて
16:00	周辺の散策	15:00	おやき作り	15:00	漁港出発	17:30	夕食準備
17:30	夕食準備	17:30	夕食準備	16:00	泉台小到着	18:00	夕食
18:00	夕食	18:00	夕食		交流会閉会式	19:00	入浴
19:00	入浴	19:00	入浴	17:30	夕食準備		学習の記録
	学習の記録		学習の記録	18:00	夕食		明日の準備
	明日の準備		明日の準備	19:00	入浴		民宿の方との交流
	民宿の方との交流		民宿の方との交流		学習の記録	21:00	健康観察・就寝
21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝		明日の準備	21:30	消灯
21:30	消灯	21:30	消灯		民宿の方との交流		
				21:00	健康観察・就寝		
				21:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・訪れる信濃平の位置や土地の様子などを学習する。
- ・課題別体験学習にむけ、飯山の自然や産業、暮らしの様子などから調べてみたいことを挙げ、関心のあるテーマを決めてグループ作りを行う。
- ・課題別グループごとに事前に、本やインターネット、パンフレットなどを用いて調べ学習をし、自分たちが調べたい課題を作る。
- ・課題別学習でお世話になる地域の方に手紙を書く。
- ・現地の泉台小学校5年生と自己紹介カードの交換をする。また、泉台小から送ってもらったビデオレターをみて、冬の飯山の様子についても学習する。
- ・お世話になる民宿の方に手紙や自己紹介カードを書いて送る。
- ・お世話になる生活指導員の方とグループごとにセカンドスクールの計画を立てる。

長野県飯山市(信濃平地区)

参加人数 男子18名 女子24名
計42名

6月7日(土)		6月8日(日)		6月9日(月)		6月10日(火)	
6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	駐車場集合	8:30	駐車場集合		片付け・準備		荷物整理
9:30	飯山の町ウォーク	9:00	森の家到着	9:00	蕎麦打ち体験		掃除
11:00	昼食	10:00	ブナの森ハイキング		笹ずし作り	9:00	アスパラ収穫
12:00	課題別グループ 体験調査活動	11:00	伐採見学 枝打ち体験	11:00	昼食	9:30	宿の方へのお礼
15:45	飯山伝統産業会 集合・出発	12:00	昼食	12:00	駐車場集合	10:00	駐車場集合
16:15	鈴荘前集合	13:00	木のクラフト作り	12:00	泉台小交流演奏会	11:00	閉校式
17:30	夕食準備	14:30	森の家出発	13:00	泉台小出発	11:00	信濃平出発
18:00	夕食	16:00	お別れお楽しみ会 の準備	13:30	きのこ工場見学	12:00	豊田飯山 I C
19:00	入浴 学習の記録 明日の準備 民宿の方との交流	17:30	夕食準備	14:30	きのこ工場出発		松代 P A
21:00	健康観察・就寝	18:00	夕食	15:00	草木染め体験		佐久平 P A (昼食)
21:30	消灯	19:00	学習の記録 明日の準備 民宿の方との交流	17:30	夕食準備		高坂 S A
		21:00	健康観察・就寝	18:00	夕食		練馬 I C
		21:30	消灯	19:00	学習の記録 明日の準備 民宿の方との交流	16:00	学校到着 帰校式 解散
				21:00	健康観察・就寝		
				21:30	消灯		

② 事後の学習内容

- ・課題別学習グループごとに自分たちが見学したり、体験したりして調べてきた内容をまとめ、保護者も招いての発表会を行う。
- ・セカンドスクールでの生活の様子や、信濃平の地域の様子をまとめ、4年生に紹介する。
- ・8日間の体験や生活を振り返り、作文にまとめる。
- ・お世話になった民宿の方、観光協会の方、各見学地の方などにお礼の手紙を書いて送る。
- ・社会科や理科の学習の際に、現地で体験してきたことや学習してきたことを振り返り、学習の参考資料とする。

○特色ある活動内容

<課題別体験学習>

今年度より、新しく飯山の町、信濃平の自然の中で自分たちの課題についてグループごとに調

べたり体験したりして学習を進める課題別体験学習を行うこととした。総合的な学習の時間の中で、自分たちの課題をもち、それを実際に現地で調べたり、体験したりしてみることで、より意欲的に問題解決に取り組むことができた。課題作りは飯山や信濃平はどんなところかを本やインターネット、パンフレットを使って調べ、その中から興味を持ったテーマを挙げて、6つのグループを作った。また、それぞれの講師は民宿のお父さんや観光協会の方をお願いした。

①飯山の自然

信濃平周辺で、植物の観察やわき水の由来などを調べるフィールドワークを行った。飯山の四季の変化、自然の様子、地形など自然環境についても話してもらい、豊かな自然について改めて学ぶことができた。

②飯山のお祭り・昔話・伝説

民宿のお母さんに飯山や長野県にまつわる昔話や、地域のお祭りについて話をしてもらった。昔話や信濃平での生活の様子を聞く中で、人と人との関わりや暮らしについても関心をもつことができた。

③郷土料理

当日は「いもなます」の作り方を教えてもらい、実際に調理体験もさせていただいた。食料を上手に保管したり、長期間食べられるような工夫が郷土料理にはあると子どもたちは気づくことができた。

④飯山仏壇

実際に仏壇工場に行き、仏壇を組み立てるところを見学させていただいた。たくさんの部品から作られていることを見学させてもらい、金箔貼りを実際に体験させてもらった。仏壇作りに携わる人の工夫や努力を実際に見て、聞くことができ、子どもたちには大変貴重な体験となった。

⑤飯山の米・農産物

信濃平の田んぼを見学し、米作りをしている方から米作りの話を聞いた。田んぼがどんな作りになっているのか、わき水を利用することでおいしい米作りができることなど、実際に見学しながら教えてもらった。また、農作業に用いる田植機やコンバインなどの機具も見せてもらい、米作りに携わる人達の仕事の様子や工夫についても学ぶことができた。



⑥内山和紙

伝統産業会館にある和紙作りの体験工房で実際に紙すき体験をさせてもらった。和紙ができあがるまでの工程を調べたり、また、和紙がさまざまに活用されている様子を調べることもできた。

【紙すきにチャレンジ】

＜自然体験学習＞

1、黒岩山のハイキング

黒岩山の登山を中心として信濃平周辺のハイキングを行った。現地の観光協会の方から食べられる山菜の話を聞いたり、信濃平全体を眺望できるところから、周辺の地形の特色について説明を受けた。

＜学習体験活動＞

1、農業体験(田植え、野菜の収穫や草取り作業など)



【田植え体験】

田植え体験では、最初はそろりそろりと田んぼに入っていた子どもたちも、しだいに田んぼの感触にも慣れ作業を進めていった。民宿のお父さん方に教えていただいたように、間隔や深さに気をつけながら真剣に苗を植えていった。また、各民宿での農作業体験では、草取りや藁敷きなどの収穫のための作業も経験した。食べるものを作る作業の一端を体験することができ、その後の社会科の学習にも生かすことができた。

2、林業体験

グループに分かれてインストラクターの方とともに活動した。人が手を入れることにより、森林の状態を保つことができることなどを、見学や体験を通じて学ぶことができた。枝打ち体験では実際にのこぎりを使って枝を切り落とす作業を行った。子どもたちが自然や環境について考えるよい機会となった。また、クラフト作りでは、木の枝を使ったパチンコづくりと、クルミの殻を用いたピン作りを行った。特に木の枝を使ったパチンコ作りでは、自分で拾ってきた枝を活用して大きさも様々なパチンコを作り、夢中で杉の実を飛ばした。その中で自然の中にあるものを活用して工夫する楽しさを味わうことができた。

3、水産業体験

新潟県能生地区の藤崎海岸で地引き網を体験した。残念ながら、あまり魚は網に入っていなかったが、地引き網というものがどうやって行われているのかということを経験できた。また、実習船の見学では、船の内部をグループごとに見学させてもらった。操縦席から船の進め方を説明してもらい、船の中で生活するための工夫など、なかなか見ることができない実際の船の中を見学させてもらった。これらの体験はその後の社会科での水産業の学習の中で生かすことができた。

＜生活体験活動＞

1、郷土料理作り(笹ずし・そば打ち)

各民宿で、民宿のお父さんお母さんに教わりながらそば打ちと笹ずし作りに取り組んだ。そば粉をこねたり、薄く延ばしたり、打ったそばを細く切ったりと初めての体験に、どの子も生き生きとしながら取り組んでいた。また、郷土料理である笹ずし作りでは、郷土料理について

教えてもらいながら作業を進めている班もあった。自分たちで作った郷土料理にどの子も大満足で、普段以上の食欲を見せてそばや笹ずしをほおぼっていた。

＜泉台小学校との交流＞

飯山市立泉台小学校の5年生と二日間の交流を行った。1日目は学校紹介やドッジボール大会、そしてグループごとのドッジボール大会、そしてグループごとのレクリエーションを行った。その後、グループごとに民宿に戻り昼食をとって、田植えを行った。最初は久しぶりの



【音楽での交流】

再会でぎこちなかった子どもたちも、午後には打ちとけ、話も弾むようになって一緒に活動に取り組んだ。また、活動後、わざわざ、民宿まで遊びに来てくれる子どもたちもいて、より交流が深まっていった。2日目はバスで一緒に新潟県能生方面へ行き地引網体験、漁港見学、実習船見学した。さらに、今年度は特別に本校の吹奏楽部の演奏を泉台小学校の全校児童の皆さんに披露する、音楽交流を行った。各楽器の紹介や「ミッキーマウスマーチ」、「ふるさと」の演奏を行った。特に、最後に演奏した「ふるさと」

では、本宿小、泉台小全校児童と一緒に歌った美しい歌声が体育館いっぱいに広がった。今回のみの特別な交流ではあったが、音楽を活かしたよい交流となった。

○児童の感想

- ・私は地引き網はもっと魚がいっぱい取れてすごいものだと考えていました。海草も取れるということは初めて知りました。普通に食べている魚も漁師さんがこうやってとってくれているからあるんだと思います。
- ・初めてはし作りをしてどこかから買うのではなく、自然から何かを作ることや、今では当たり前にあるものでもむかしの人はたくさん考えて竹や木から作ったということを学び考えました。はし作りができて本当に良かったです。
- ・できあがりのパチンコはすごく良く飛びました。飛ばした玉が飛んでいるうちに見えなくなるほど良く飛びました。自然のものでおもちゃが作れて、しかも楽しく遊べるなんて初めての体験でした。飯山では初体験だらけで本当に楽しかったです。
- ・和紙を作るまでにこんなに苦労しているなんて知りませんでした。今、機械で作る紙が多くなって手作りの和紙が少なくなっています。和紙を大切にしていきたいと思いました。

○保護者の感想

- ・セカンドスクールより帰ってきた頃、言うことは「飯山に帰りたい」でした。最近「大きくなったら飯山で暮らそうかな・・・」です。私たちも一緒に来るように誘ってくれます。貴重な体験をさせていただきました。
- ・出発日前までは7泊という長い日程に不安もあったようですが、帰ってきてみるととても楽

しくあつという間に過ぎたようでした。日常の生活ではできないような様々な体験は机上の勉強にはない深いものを感じることができたでしょうし、ゲームやテレビのない自然の中に身を置き、自分たちで考えながら過ごすことでいろいろ学んだと思います。泉台小のお友達が民宿まで遊びに来てくれたこともとても嬉しかったそうです。

- ・本人にとってはとても楽しい思い出ができ、又貴重な体験ができてよかったと思います。家族と離れてみることで家族の良さも分かったようです。飯山の自然に囲まれての生活は新鮮で楽しかったようでよく話をしてくれます。妹にも自慢をしています。カエルが特にお気に入りでした。

○総合的な学習の時間との関連について

課題別体験学習にむけて、課題づくりのために飯山や信濃平について調べた。課題ごとにグループを作り、事前に下調べを行った。また、現地ではそれぞれのグループごとに課題別体験学習を行った。さらに、それぞれのグループで調べたことを学習発表会の形で発表、交流し合った。

3学期には4年生に「セカンドスクールを伝えよう」というテーマでセカンドスクールでの生活の様子や課題別学習の取り組みについて紹介を行う予定である。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

プレセカンドスクールと同じ地区での実施のため、昨年度から引き続き地元の泉台小学校5年生との交流や宿の方との関わり画より深められた。また、プレセカンドスクールを経験していることで、生活面、健康面において事前の準備や心構えができ、現地で自分たちで活動する姿勢がもてたようである。

○次年度に向けての反省・課題

- ・今年度、初めて課題別体験学習に取り組んだ。子どもたちが学習のテーマや現地講師の開拓、また現地での活動手段など、さらに内容を深められていくといい。現地との連携を密にしながら、準備を進めていきたい。
- ・今年度はなるべく1日のスケジュールに余裕を持たせて、日程を組んだ。その中で、子どもたちは信濃平の自然の中で、蛙を捕まえたり、笹舟流しをしたり、チャンバラごっこをしたりと自分たちで遊びを見つけていった。体調を崩す子どもも少なく、今後も今年度のような日程を組めるといいのではないかな。
- ・来年度から、セカンドスクールの実施時期が秋に変わる。活動内容は田植えが稲刈りに変わるが、概ね同じような内容で実施できるものと考えられる。しかし、泉台小学校との交流はセカンドスクールでのみになってしまうので、現地での交流とともに、事前や事後の交流ができるとよい。

千川小学校

9月26日～10月3日(7泊8日)

○日程表

9月26日(金)		9月27日(土)		9月28日(日)		9月29日(月)	
8:00	三鷹駅集合 出発式	6:00	起床、検温、清掃	6:00	起床、検温、清掃	全日、農家での生活体験。 稲刈り・きのこの選別と袋詰め、里芋の収穫等、各農家の作業を体験する。	
8:30	三鷹駅出発	7:00	朝食	7:00	朝食準備(野外炊飯郷土料理・芋煮)		
10:12	東京駅出発 昼食(車内)	8:15	玄関前集合	10:30	野外炊飯片付け		
12:34	新潟駅出発	8:50	月山ビジターセンター着	12:50	宿舎出発		
14:29	鶴岡駅着	9:30	羽黒ふれあいの小径	13:50	西郷選果場着 (ねぎの集荷場見学)		
15:30	金峰少年自然の家 開校式	11:00	昼食 (月山高原牧場)		花卉栽培ハウス見学・農機具見学・鶴岡市の農業の学習		
17:30	夕食	13:00	金峯山周辺散策	16:30	農業支援センター (宿泊先農家との対面式)		
18:30	入浴	17:30	夕食	17:00	各農家毎に出発		
19:00	学習整理	19:00	入浴		17:00以降は、各農家の計画に従っての生活が始まる。		
21:00	健康観察	20:30	学習整理・手紙書き		(農家民泊)		
21:30	消灯	21:30	消灯				

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・1学期…総合的な学習の時間(千川タイム)「セカンドスクールに行こう」と社会科「自然のめぐみをいかして」の双方の単元で、農業のついての学習を進めてきた。特に、「セカンドスクールに行こう」では、本校の「わくわく広場」の水田において、田おこしから始まる稲作の体験や、稲についての調べ学習を進めて、セカンドスクールでの学習に生かそうとした。それとともに、山形県や庄内地方、鶴岡市についての学習を開始した。1学期後半から、課題別学習のテーマを決め、自分の課題について事前に調べる学習を始めた。調べ学習を通して、鶴岡市周辺の風土・歴史・産業などを学んだ。
- ・2学期…民泊でお世話になる農家へ挨拶状を書いたり、5泊する宿泊施設での生活のイメージを造りあげようとした。また、自分で決めた課題について、より深める学習を行った。

山形県鶴岡市

参加人数 男子40名 女子25名
計65名

9月30日（火）		10月1日（水）		10月2日（木）		10月3日（金）	
6:00	起床、検温、清掃	6:00	起床、検温、清掃	6:00	起床、検温、清掃	6:00	起床、検温、清掃
7:30	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
8:00 8:30	各農家出発 農業支援センター （お別れ式）	8:30	集合・出発	8:30	集合・出発	8:30	大掃除・出発準備
9:10	日向川へ出発	9:00	課題別学習 「まち」「うみ」 「やま」	9:00	課題別学習 「まち」「うみ」 「やま」	9:15	閉校式
10:30	日向川で、鮭のつかみ取り	12:00	昼食	12:00	昼食	9:30	宿舎出発
12:20	鮭の加工場着、施設の見学、昼食	13:00	課題別学習 「まち」「うみ」 「やま」	13:00	課題別学習 「まち」「うみ」 「やま」	10:51	鶴岡駅出発 昼食（車内）
14:10	釜磯海岸着・散策	15:00	宿舎着	15:00	宿舎着	13:10	新潟駅出発
15:55	宿舎着	16:00	課題別学習のまとめ	16:00	課題別学習のまとめ	15:30	東京駅着
17:30	夕食	17:30	夕食	17:30	夕食	16:15	三鷹駅着
19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴	16:30	解散式
20:00	学習整理・しおり記入	20:00	学習整理・日記	20:00	学習整理・荷物整理		
21:30	健康観察・消灯	21:30	健康観察・消灯	21:30	健康観察・消灯		

② 事後の学習内容

- ・お礼の手紙を清書して、全員分をまとめ、お世話になった方々へ郵送するようにした。分担を決めて書くようにしたが、分担以外の方へも進んで書く児童が多かった。
- ・千川タイム「セカンドスクール発表会をしよう」では、セカンドスクールで心に残ったことを選び、個人、又はグループでの発表会を計画した。発表は本校の学校公開日に、ふれあいホール（講堂）で行った。発表会でのめあてを、（１）ホール全体に聞こえるはっきりした声で発表する（２）見やすい資料の作成を工夫するとした。どの児童も発表会に向け、意欲的に学習を行うことができた。本格的な発表会は初めてであり、発表内容や発表の仕方など、まだ未熟な面も見られたが、どの児童も緊張した面持ちで発表会に臨んだ。参観した保護者や４年生の児童からは、好評の声が多く聞かれ、児童にとって次への自信につながる経験となった。また、セカンドスクールの思い出を、共同作品にした。五七調にまとめた気持ち（文と絵）を、山形県や庄内地方、鶴岡市の特産品などを切り絵にしたオブジェに飾った。多くの体験の中から、一人一人、１番印象に残った出来事を作品に残した。製作活動に励む児童の姿から、充実した内容のセカンドスクールを過ごしてきたという気持ちが伺えた。出来上がった共同作品は、昇降口の掲示板に貼り、全学年の児童が見られるようにした。また、小学校生活最後の展覧会の会場の入り口にも展示した。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、月山ビジターセンター・羽黒ふれあいの小径・月山高原牧場見学

前夜からの豪雨と気温が低いため、予定していた鳥海山登山を中止にした。代わりに、月山周辺の自然散策に出かけた。月山の登り口には、月山周辺の自然学習のための「月山ビジターセンター」があり、周辺の自然学習の拠点となっている。また、「羽黒ふれあいの小径」が隣接しており、ここでは森が成長していく過程を、歩きながら学習することができる。

- ・月山ビジターセンター…月山周辺の、四季折々の自然に関する展示資料館を見学した。また、自然の宝物（落ち葉・木の実等）を使っの木工体験等も体験できる。ここでは、館内を自由行動にした。出羽三山に生息する動植物の写真や小動物の剥製を見学したり、自然に関する本を見たりと、それぞれに学習を行った。
- ・羽黒ふれあいの小径…人工池を中心に、数種類の自然探求路を歩きながら、森の生態の観察ができる。ここでは、グループ毎に好きな小径を散策し、森が出来上がる過程（成長途中の木々、成長が終わった木々）の様子を学習した。

2、金峯山探索

山形県金峰少年自然の家が位置する金峯山の自然を味わった。散策路を通り、頂上を目指したり、フィールドアスレチックに挑戦したりと、グループごとに工夫しながら、金峯山の自然を満喫した。

＜学習体験活動＞

1、農業体験（農家での体験・鶴岡市の農業学習）

米所・庄内平野にある鶴岡市では、稲作はもちろんのこと、さまざまな農業体験や流通など、農業に関する学習を行うことができた。社会科「伊藤さんの米作り」の単元で取り上げられている場所も同じ庄内平野なので、学習したことを生かしたりまとめたりする活動が、やりやすかったものとする。

- ・農家での体験…民泊する農家毎に、そこで行われている作業を体験した。今年度は2泊の民泊だったので、各農家での作業がゆったりとした時間の中で進んでいたようだ。特に、丸1日を農家で過ごす生活は、各家庭で様々な仕事を用意してくださり、ありがたかった。
- ・鶴岡市の農業学習…農家民泊の前に、全体で鶴岡市及び庄内地方の農業について学習した。まず、特産品の一つである葱の集荷場で、実際に選別や梱包を見学した。次に花卉栽培ハウスの見学、農業機械の説明と進み、最後に会議室で山形県全体の農業についての説明を受けた。鶴岡・庄内・山形の農業学習を全体に行ったことで、次の農家での生活（農作業等）にスムーズにつながることができた。

2、「まち」「うみ」「やま」課題別学習

鶴岡の産業・伝統文化・歴史などについて体験を通して理解を深めるために、「まち」「うみ」「やま」の課題の中から2つを選択して、学習を進めることとした。昨年度より1日多く課題別学習を設けたことで、調べ学習により深まりが見られた。

- ・「まち」…絵ろうそく作り、御殿まり作り、市内散策、南岳寺を見学した。鶴岡市中心部に出かけ、午前中は伝統工芸品である絵ろうそくと御殿まり作りに取り組んだ。昼食を鶴岡城趾公園で取り、町の歴史や文化にふれながら、市内中心部を散策した。午後には南岳寺に行

き、即身仏を見学した。児童は興味本位に見ることなく、即身仏となられたお坊さんの意志の強さに心打たれていた。

- ・「うみ」…つりと加茂水族館を見学した。鶴岡市由良に出かけ、海浜釣り堀においてつりを行った。釣り堀の中には日本海沿岸に生息する魚がいて、全員がつり上げることができ満足げだった。地元の食堂のご厚意で、つり上げた魚をお昼ご飯のおかずに出していただき、皆、おいしそうにほおぼっていた。加茂水族館では、クラゲの生息に関するレクチャーを受けた。
- ・「やま」…羽黒山において山伏修行を体験した。いでは文化記念館において、羽黒山の歴史、山伏修行の目的などの話を聞いた後、実際に羽黒山抖そう・壇張り・滝打ち・火渡りなどの修行を体験した。壇張りとは一汁一菜の食事のことで、少しの食事で行く山伏のたいへんさや食事のありがたさが児童の印象に残ったようだった。滝打ちの修行では、例年より20日程早い月山の雪解け水を浴びた。かなりの冷たさに児童も驚いていた。

3、水産業体験(鮭つかみ)

遊佐町の日向川に出かけ、遡上する鮭が入り込んだ檻の中から直接採る活動をした。檻の中ですばやく逃げる鮭をやっとさわられただけの児童もいたが、1分もしないうちに捕まえ、歓声を上げていた児童もいた。つかみ取り体験の後に、梶川の「さけます増殖資源加工センター」で、鮭の加工食品についての学習と試食をした。産卵について（命を伝える）の学習や鮭の命をいただく体験を通して、命の大切さを実感した児童が多く見られた。

<生活体験活動>

1、山形名物・芋煮をつくろう

金峰少年自然の家の敷地内にあるキャンプ場において、朝食用に、生活班毎で芋煮作りを行った。班毎に、食材の準備をする人と竈の用意をする人など分担し、活動していた。自分たちで作った芋煮なので、「おいしい」を連発しながら食べる児童が多数いた。食器類の後片づけの点検が大変厳しく、「次に使う人のことを考える。」という心構えの大切さも学ぶことができた。

<地域の人々とのふれあい>

1、農家民泊

児童は3～5人ずつ16のグループに分かれて、2泊3日の予定で鶴岡市内の農家に民泊した。2日目は、丸1日、農家で生活だった。各農家で作業等をゆっくりに行うことができた。様々な作物の収穫、コンバインやトラクターの運転、直販所への出荷の手伝いをはじめとした農作業の他、家庭内の仕事も手伝っていた。農家の方々は、家族の一員のように、優しく時には厳しく子どもたちに接してくださった。このように、地元の方々との交流が深まったことは、昨年より日数を1日多くしたことの利点だった。

○児童の感想

- ・セカンドスクールに行って、1番楽しかったのは農家にとまったことです。田んぼでコンバインを運転させてもらって良かったです。農家の人は、みんなやさしい人ばかりで、とても楽しかったです。
- ・私がセカンドスクールで1番楽しかったことは、課題別学習の「やま」です。羽黒山の石段は、とても大変でした。登っていく途中、絵がかいてある石を見つけることができて良かったです。

- ・鳥海山には登れなくて、ちょっと残念でした。でも、代わりに金峯山の冒険ができて良かったです。頂上をめざして登り始めたけど、時間切れで、引き返したのがちょっとくやしかったです。

○保護者の感想

- ・7泊8日、よくがんばったと思います。武蔵野では体験できないことを、たくさん体験できて、とてもよかったと思います。特に、農家の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・帰ってきた子どもの顔を見て、「ちょっと成長したな」と感じました。この生活の中で学んできたことを、これからの学校生活の中で生かして行ってほしいです。
- ・目を輝かせて、農家で作業や、釣りのことなどたくさん話してくれました。「また行きたいな」と話す子を見て、「本当に、たくさんのことをしてきたんだな、楽しかったのだな」と思いました。ありがとうございました。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間（千川タイム）で高学年の児童が身に付ける力として、本校では以下の点に重点をおいている。

- ・自分なりの視点で課題を見付け追究していく。その中で、課題を多面的に見たり、別の課題に発展させたりして追究する。
- ・伝えたい相手を意識しながら、自分が伝えたいことを、より分かりやすく自分の言葉で表現する。

1 学期中から開始した「セカンドスクールに行こう」の学習では、多くの資料（鶴岡市から取り寄せた副読本・インターネットのホームページ・新聞記事など）の中から課題を見つけた。そして、課題について調べたり、セカンドスクールで体験を通して学ぶ中で、課題をより深く考えることができた。

セカンドスクール後は、「セカンドスクール発表会をしよう」の単元で、発表会に向けて「自分が1番発表したいこと」「自分の言葉で分かりやすく」を意識させるよう指導した。舞台上から、保護者と4年生に向け発表したのだが、ねらいはある程度達成できたものとする。また、発表をするための資料の作成についても指導をし、より効果的な発表をすることができた。セカンドスクール中、様々な場で人と出会う中で、挨拶や礼儀作法といった基本的なこと、課題を見付ける目や深めていく力を、今後は総合的な学習の時間だけでなく、他の教科・領域や学校生活全般に生かしていくよう指導したい。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

昨年度のプレセカンドスクールでは2泊3日の宿泊を経験した。民宿に分宿するという形だったが、この形式は「農家民泊」の中で生かされた。また、課題に取り組み、まとめていく学習も、プレセカンドスクールでの経験が生かされ、スムーズに発表会に向けて活動が進んだ。

昨年度、檜原村で森林の学習を行ったことが、今回は非常に役に立った。山の自然・川の自然・海の自然が互いに結びつき、関連し合っていることを、鳥海山（今回は月山・金峯山）や

日向川・釜磯海岸という現地での自然の中で、再認識できた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・昨年度からの変更点は次の２点である。農家民泊を１日増やしたこと、課題別の学習を２つ経験できることである。農家民泊は、泊数が１日増えただけで、ゆとりのある農家での生活が送れた。地元の方とのふれあいも、ごく自然に多くなったことで、児童が、より鶴岡に親しみを覚えたようだ。また、課題が２種類選べたことで、「自然・歴史・文化」をより多く吸収することができた。
- ・次年度は、鳥海山登山ではなく、月山周辺の山々への登山を考えたい。鳥海山までは時間的に負担がかかりすぎる。同じ鶴岡市に在る月山周辺の山々への登山でもよいのではないかと考える。フィールドを１つの市に限定することで、その地域との結びつきがより深くなる。幸い、鶴岡市には「山・川・海・歴史・文化」というセカンドスクールの狙いに即した事柄が多く点在している。この長所を更に生かしていくことが、本校のセカンドスクールのさらなる充実につながっていくと考える。



【農家民泊】



【鮭つかみ体験】



【課題別学習「やま」 山伏修行】

井之頭小学校

9月24日～10月1日(7泊8日)

○日程表

9月24日(水)		9月25日(木)		9月26日(金)		9月27日(土)	
7:30	学校集合	10:00	稲刈り	9:00	宿ごと体験	9:30	きのこ工場見学
7:40	出発式		はぜかけ		・焼き板工作		各自、収穫
8:00	バス乗車、出発				・宿ごとの調理	10:30	カントリー
					そば打ち		エレベーター見学
		13:00	脱穀		ぼた餅	13:30	瑞穂の棚田見学
12:00	戸狩到着、開校式		千歯扱		パン(雑穀・野草)	14:30	棚田についての
			足踏脱穀機		バウムクーヘン		お話を聞く
13:00	餅つき体験、昼食		コンバイン				棚田のスケッチ
	部屋割り、荷物整理	16:00	雪国の暮らし学習	15:00	郷土食体験		
14:00	課題別学習①				笹寿司づくり	16:30	焚き火体験
		19:00	暗闇体験			19:00	手紙書き

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・社会化の授業で「気候を生かした地域の暮らし」の学習において、飯山市戸狩地区の事にふれ、現地に行った折の「雪国の暮らし学習」への意識付けを図った。また、長野県の気候についても調べた。
- ・1学期の総合的な学習時間に、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。
社会科で田植えまでの過程を学習した後、田おこし、代掻きなどの作業に続いて学校の水田で田植えを行った。植えた苗は戸狩から送っていただいたもので、セカンドスクールへの動機づけともなった。不安定な水田の中で真っ直ぐに並べて植えるのは難しく、その時の経験を覚えていたのか、戸狩の田の美しさに児童たちは感嘆していた。
- ・現地での課題別学習に向け課題を選択させ、インターネットや書籍での調べ学習を行った。
課題は、戸狩の宿の方の専門分野を伺ったうえで設定した。内容は、①米、稲作について②野菜作りについて③飯山の昔、伝統産業について④郷土料理について⑤川の生物、虫、小動物について⑥戸狩の野草についての6つである。
- ・交流会で感謝の気持ちをしっかり伝えられるよう、事前に計画を立てさせたり、準備をさせたりした。

長野県飯山市(信濃平地区)

参加人数 男子28名 女子30名
計58名

9月28日(日)		9月29日(月)		9月30日(火)		10月1日(水)	
9:00	西大滝ダム見学	8:30	わらざうり作り	9:00	茶屋池周遊 ぶなの森ハイキング	8:00	掃除、荷物整理
9:30	飯山線の旅					9:30	閉校式
	西大滝～北飯山	13:00	課題別学習②			10:00	バス乗車 出発
10:30	お寺めぐり		・米、稲作について	13:00	課題別学習③		
	大聖寺～正受庵		・野菜作りについて		わらざうり作り		
13:00	飯山についての学習		・飯山のむかし		つづき		
14:00	①和紙すき体験		伝統産業について	15:00	交流会準備	15:00	学校着
	②伝統産業会館		・郷土料理について			15:30	解散
	飯山ふるさと館見学		・川の生き物、虫、小動物について	18:30	交流会		
	(①②は、クラスで入れ替えて行う)		・野草について				
		15:00	交流会準備				

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験を作文にまとめた。
- ・課題別学習班ごとに、事前に調べて行ったことや現地で学んだことを模造紙にまとめ、互いに発表した。
- ・戸狩で稲刈りした体験をもとに、学校の田でも稲刈りをした。はぜかけの後、手作業で脱穀をし、家庭科の授業でもみすりを行った。田植えから、もみすりまでの一連の作業を体験することで、米作りの過程やその大変さをより理解することができた。
- ・戸狩からいただいたジャガイモを活用し、家庭科の授業で「ジャガイモ料理」の調理実習を行った。ジャガイモの様々な料理法を、考え、学ぶことができた。
- ・お世話になった宿の方々に手紙を書き、2ヶ月後に行われた歓迎会で手渡した。感謝の気持ちを伝えるとともに、宿の方々との久しぶりの交流ともなった。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、茶屋池周遊ハイキング

宿のお父さん方とともに、茶屋池周辺に広がるブナの森のハイキングを行った。最初に全体でブナの水を蓄えるという特色や、自然環境に果たす役割などについての話を聞いたことが、意識付けとなった。ハイキングの中では、森にいる生物や生息しているきのこ、植物などについて学習することができた。整えられた道ではなく、自然のままの山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、自然と生物との関わりを実感することができた。

2、暗闇体験

東京では体験できない、真っ暗な道を歩く体験を行った。普段は夜でも電灯の明かりやネオンがあり、本当の夜の暗闇をなかなか体験することができない。山道での暗闇体験を通して、暗闇の深さや怖さを知ったり、逆に闇の安心感を感じたりする児童もいた。自然を体験できる有効な手段であった。帰宅後、灯りの暖かさや有り難さも実感することができたのではないかと考えている。

3、棚田のスケッチ

棚田の見学の後、棚田保存協会の方から、棚田がなぜこのような形になったのか、また、棚田を維持していくための苦労などの話を聞いた。自然の地形を生かし、少しでも多くの米を栽培しようとする知恵を学んだことは、自然との共生について考えるよい機会になった。さらに、棚田や周辺の自然をスケッチすることで、里山の美しい自然に目を向けることができた。

<学習体験活動>

1、農業体験(稲刈り・はぜかけ・脱穀)

民宿の方々の指導で、稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、勢いよく手前に引くように刈っていった。最初は面白がっていた児童たちも、刈る田の面積が広がったことから徐々に疲れが見え始めた。しかし、宿の方の声かけで「やり終えなければならぬ。」という意識を高められ、ただの体験ではなく仕事として真剣に取り組む姿が見られた。

はぜかけでは、稲穂の束ね方から習った。少しずつの分量でまとめて干すことで、湿気ることがなく、黴がはえないということを学んだ。

脱穀では、千歯扱・足踏脱穀機・コンバインの3種類の農具を体験することが出来た。千歯扱では、粃をより分けるために考えられた江戸時代の人々の知恵の深さに感心している児童が多かった。手前に引くと一気に粃が落ちる迫力にも感動していた。足踏脱穀機は、さらに多くの量を手早く脱穀できる農具である。足でペダルを踏み続けることと、穂を少しずつ回転させながら歯にかけることを同時に行わなければならない、タイミングを合わせる事がむずかしい。苦戦しながらも、「歯の部分はどのように回転しているのだろう。」「ペダルとはどうやってつながっているのか。」と疑問をもって観察している児童もいた。最後にコンバインでの脱穀の様子

を目の当たりにし、農具の進化と、それを考え出した人々の知恵を実感できた学習であった。

この農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものであり、他の活動との関連を図った。主なものは、カントリーエレベーターの見学と、わらぞうり作りである。カントリーエレベーターの見学は稲刈りをした翌日に実施し、稲刈り・はぜかけ・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えやすくした。わらぞうり作りでは、粃を落とされた穂を再利用し生活用品に生まれ変わらせるという、昔の人の知恵を体感することが出来た。また、帰宅後の国語の学習「わらぐつの中の神様」への動機づけや深い理解へとつながった。

主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について、ともに学ぶことが出来た。

＜生活体験活動＞

1、郷土料理づくり

宿の方の指導で、「笹寿司」づくりを行った。笹寿司の起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味をもったようであった。また、乗せる具材を切るところから調理を始めたことで、達成感もあったのか、大切そうに食べている様子がみられた。

2、宿ごと体験

それぞれの宿ごとに、焼き板工作と調理を行った。焼き板工作では、焼いた板についた煤をきれいにはらうことで、板に新たな風合いを出せるということを知ることができた。

宿ごとの調理は、そば、ぼた餅、パン、バウムクーヘンづくりである。そばは、そば粉をこねるところから始め、最終的には自分で打った麺を食べた。ぼた餅は、もち米を炊き、2種類の味付けをした。パンは、雑穀で作った班と、野草で作った班があった。バウムクーヘンは、炭火の上で竹筒を回し、生地をぬりながら作っていった。どの班も自分の家で作ったことが無い物への取り組みで、意欲をもってできただけでなく、自分で作り上げたという満足感を味わうことができた。

＜宿の方とのふれあい＞

1、課題別学習

課題別学習は、以下の6種類からの希望制で行った。

- ・米、稲作について・・・戸狩でとれる米についての学習や、白米、玄米、胚芽米などの食べ比べなどをおこなった。
- ・野菜作りについて・・・戸狩で主に生産される野菜についての学習や、畑での収穫などを行った。
- ・飯山の昔・・・飯山城址に行ったり、がんぎの続く町並みを見学したりすることで伝統産業について飯山の歴史を学んだ。
- ・郷土料理について・・・笹寿司やエゴといった飯山の郷土料理について学び、にらせんべいを調理した。
- ・川の生き物・虫・・・周辺を流れる川に行き、カニやカエルなどの生き物について、実際小動物について見ながら学習した。

- ・戸狩の野草について・・・周辺の散策をし、よく見られる花や植物について学習した。
- これらのことを宿の方々に教えていただいたことで、より深い関わりをもつことができた。

2、地域についての学習(雪国の暮らし・飯山について)

「雪国の暮らしについて」の学習や「飯山について」の学習の講師を宿の方をお願いしたことで、より関心をもって学習することができた。

＜地域を知る活動＞(飯山線の旅・寺めぐり)

飯山の寺巡りをすることで、寺が多い理由や土地の風土について関心をもつことができた。
また、出発地の北飯山まで飯山線で移動することにより、単線の特徴を知ることができた。

○児童の感想

- ・稲刈りをしたことで、農家の人の大変さがよく分かりました。これからは、お米を一粒一粒大切に食べるようにしたいです。宿の方が作ってくれた食事とてもおいしくて、うれしかったです。
- ・そば打ちをしたことがなかったので、どん風にするのか分からなかったけれど、粉から作っていくのが楽しかったです。大きな包丁で細く切るのが大変だったので、食べることが出来た時は感動しました。
- ・わらぼうり作りは、わらを編んでいくのが難しかったです。けれど、はけるようなものが出来たのでよかったです。セカンドスクールの思い出として、大切にしておきたいと思っています。
- ・セカンドスクールの一番の思い出は、宿での生活です。お父さんやお母さんと話をしたり、宿の子どもたちと遊んだりした時間は、本当に楽しかったです。本当の家族のようでした。
- ・宿の近くにある川で、かえるやヤゴを捕まえたり、草むらでバッタやカマキリを捕ったりしたのが楽しかったです。空気がおいしくて、外で遊ぶのも思いっきり出来ました。
- ・今回学んだのは、友達との関わり方です。みんなが楽しく過ごすために、一人一人のことを考えました。楽しい7泊8日にすることが出来てよかったです。またこのメンバーで戸狩に行きたいです。

○保護者の感想

- ・最初は7泊8日ということで心配している部分もあったのですが、帰宅後、戸狩でのことを、楽しそうに話してくれる姿を見て、いい体験が出来たのだなと嬉しくなりました。
- ・今まであまり関わりがなかった子と「親友になったよ。」といって帰ってきたのを見て、よかったなと思いました。
- ・セカンドスクールから帰ってきて、ご飯をよく食べるようになったことに驚きました。
- ・一生懸命作ってきたわらぼうりをプレゼントしてもらい、感激しました。

○総合的な学習の時間との関連について

総合的な学習の時間では、事前に課題別学習の下調べを行い、事後には学んだことをまとめ、

発表会を行った。現地ではそれに関連させ、課題別学習をテーマごとに行い、事前に調べたことの確認と新たに知り得たことの学習を実践した。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

- ・長距離の移動ではあったが、体調を崩す児童も見られず、現地までバスを進めることが出来た。
- ・一週間という長い期間の実施であったが、極端なホームシックにかかる児童も見られず、楽しんで活動することが出来た。
- ・多くは初めての体験活動が主だったが、順応が早く、主体的に取り組む姿が見られた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・朝の集合時刻が早めに設定されており、余裕がなかった。集合は9時ぐらいにし、ゆとりをもたせたい。
- ・到着後に昼食と合わせ、もちつき体験を入れるのが難しかった。ゆとりをもってできるような夕食と組み合わせる等、改善していきたい。
- ・稲刈りの翌日にハイキングを設定していたのは、体力的にも辛いように感じた。今回雨天で入れ替えたように、早い時点で宿での時間を多く取れるようなプログラムにしたい。その方が、児童も落ち着くように思う。
- ・きのこ工場、カントリーエレベーター、西大滝ダムの見学、お寺めぐりは、意義をさらに明確にできるよう工夫が必要である。



【 わらぞうり作り 】



【 稲刈り ・はぜかけ 】



【 宿ごと体験 そば打ち 】

関前南小学校

9月24日～10月3日(9泊10日)

○日程表

9月24日(水)		9月25日(木)		9月26日(金)		9月27日(土)		9月28日(日)	
		6:30	起床健康チェック	6:30	起床健康チェック	6:00	起床健康チェック	6:00	起床健康チェック
		7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	6:30	大清掃	6:30	清掃 整理整頓
8:30	三鷹駅出発式	8:50	集合 出発	8:50	集合 出発	7:00	朝食	7:00	朝食 出発
9:00	三鷹駅発	9:30	課題追求活動			8:50	集合 出発	8:15	宿舎着
10:12	東京駅発		遊佐の川魚	10:30	獅子が鼻湿原	9:00	自然文化学校	9:00	自然文化学校
			海岸漂着物調査		ハイキング		○魚と遊ぼう		○魚と遊ぼう
12:35	新潟駅発		鳥海山の湧水				○木と草花と遊ぼう		○木と草花と遊ぼう
			遊佐の文化				○鳥海山の自然		○鳥海山の自然
15:01	遊佐駅着		宿舎着	14:40	宿舎着		○わくわく農業		○わくわく農業
15:30	開校式	16:00	学習のまとめ	16:00	学習のまとめ	15:45	宿舎着	15:45	宿舎着
						16:00	旅館着	16:00	旅館着
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴		学習のまとめ		学習のまとめ
18:00	夕食	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴
19:00	学習のまとめ	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
20:30	健康チェック	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き
21:00	消灯	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック
		21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・4年2学期・・・19年度の学習発表会において、5年生(現6年生)のセカンドスクールに関する展示を見学し、次年度の活動に対する関心を高めた。
- ・5年1学期・・・実施地の山形県遊佐町や庄内地方について調べ学習を行った。
 - ・現地で長年講師としてお世話になっている方に来校していただき遊佐の自然について話をいただいた。
 - ・吹浦小学校との交流会に向けて、グループ別に作った「関前南小新聞」を事前に送ったり、吹浦小学校から自己紹介カードをいただいたりした。
- ・5年2学期・・・課題追究活動のグループ作り及び計画、活動準備を行った。
 - ・吹浦小学校で交流する友達へ手紙を書くなど事前交流をすすめた。

山形県飽海郡遊佐町・酒田市

参加人数 男子33名 女子21名
計54名

9月29日（月）		9月30日（火）		10月1日（水）		10月2日（木）		10月3日（金）	
6:00	起床健康チェック							6:00	起床健康チェック
6:30	清掃 整理整頓	6:30	起床健康チェック	6:30	起床健康チェック	6:30	起床健康チェック	6:30	大掃除 荷造り
7:00	朝食 出発	7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	7:30	朝食
8:15	宿舎着 出発							8:35	閉校式
8:50	集合 出発	8:50	集合 出発	8:50	集合 出発	8:50	集合 出発	9:10	集合 出発
9:30	鮭つかみどり 体験	9:15	吹浦小学校との交流	9:15	湧き水見学	9:30	カントリーエレベーター、北平田倉庫見学	10:45	新庄駅着
12:00	昼食（鮭加工場）			12:30	昼食	12:00	昼食		
				13:30	米作り農家の 伊藤さんの話	13:00	山居倉庫・米歴史資料館見学		
14:00	釜磯海岸見学			14:00	コンバインの 刈り取り見学			14:56	東京駅着
15:45	宿舎着	15:45	宿舎着	15:45	宿舎着	15:00	宿舎着	15:50	三鷹駅着
16:00	学習のまとめ	16:00	「公益」について講話	16:00	学習のまとめ	16:00	遊佐町教育長の講話	16:00	解散式
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	16:20	解散
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食		
19:00	手紙書き	19:00	学習のまとめ	19:00	お礼状書き	19:00	お礼状書き		
20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック		
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯		

② 事後の学習内容

- ・全校児童集会で、他学年児童に映像とナレーションで「セカンドスクール発表会」を行った。
- ・社会科では「伊藤さんと後藤さんの農業（循環型農業）」について見学をとおして分かったことをまとめた。次の単元である「これからの食料生産と食生活」でも循環型農業にふれながら学習をすすめた。児童は、教科書に掲載されているご本人から実際に話を聞いてきたことをもとに、現在の日本の農業について自分の考えをもちながら学習をし、理解を深めた。また、伊藤さんには11月に来校していただき、改めて「農業の未来」について話をいただいた。
- ・国語科では「セカンドスクールの感動を書き表そう」と題し、セカンドスクールでの体験や

自身の成長や変化を振り返らせ、作文に表現させた。

○特色ある活動内容

＜社会科・農業見学＞

1. 米作り農家の伊藤さんの話

教科書に載っている方との出会いに児童はわくわくしていた。“はえぬき”は庄内の気候に合った品種であること、米作りで何より大切なのは土作りであること、地域の農家全員がよりよい品質作りに努力しないとよい米は確保できないことなどの教科書にはない情報に、児童は熱心に聞き入っていた。

2. 養豚業の後藤さんの話

伊藤さんと同じく社会科の教科書にのっている後藤さんに話を聞いた。循環型農業についての話を聞いた後、豚の糞尿と米のもみがら、わらを混ぜ合わせ乾燥させて作る完熟堆肥作りを見学した。また実際に完熟堆肥の臭いをかぎ、実物に触れ、豚の糞尿がどうして堆肥になるのだろうと疑問をもっていた児童はその変化に驚いていた。

さらに、飼育されている生まれたばかりの子豚を実際に触らせていただき、大喜びをしながら豚のぬくもり、命のぬくもりを感じていた。

3. コンバインでの刈り取り作業見学

もみを取り入れ、稲の茎を落として次々に収穫していくコンバインの作業量の速さを実感しながら見学した。コンバインの運転席に座ったり、代表児童が実際に刈り取りを体験させていだいたりした。

4. カントリーエレベーター見学

農家が収穫したお米を実際に運び入れる様子を見学し、教科書に載っているカントリーエレベーターの構造、働きを理解した。

5. 山居倉庫・庄内米歴史資料館訪問

昔の人が考えた温度を下げるための二重屋根、土壁、けやき並木の工夫等に、児童は興味深そうだった。歴史資料館には昔の米作りの様子や道具が展示されていて、米1俵の重さ（60kg）を体感し昔の人の力強さに驚いていた。

＜課題追究活動＞

①「鳥海山の湧水」 課題「湧水の性質を調べたい」

沢登りをしながら、各所にある湧水について温度、pH、硬度、残留塩素を調査し、湧水の冷たさや混じりけのなさに驚いていた。

②「くらの湧水」 課題「湧水が遊佐の人々にもたらすめぐみを調べたい」

湧水だけでできた鮭の遡上する牛渡川に胴長を着て入り、きれいな川にしか生息しない魚を捕まえたり観察したりした。また、湧水とミネラルウォーターの飲み比べをした。

③「遊佐の川魚」 課題「遊佐の川にはどんな魚がいるのか調べたい」

月光川中流の朝日橋周辺で魚釣りをし、観察をした。

④「ビーチコーミング」 課題「遊佐の海岸にはどんなものが流れつくのか調べたい」

西浜海岸でビーチコーミングやゴミの調査、分析などを行った。

⑤「遊佐の文化」 課題「遊佐で受け継がれているアマハゲについて調べたい」

アマハゲ保存会会長さんから、100年以上受け継がれているアマハゲの話を聞いたりお面を見せていただいたりした。

<自然体験活動>

1, 遊佐自然文化学校活動

①「魚と遊ぼう」

ほとんどの児童が釣りは初めてという状態だったが、講師の先生の丁寧なご指導のもとしかけ作りとえさづけなどの準備を全て自分たちで行った。クサフグ、アジ、クロダイなど17種類の魚が釣れた。児童は、魚の種類の多さやそれぞれの形や表情の違いを実感していた。

②「木と草花と遊ぼう」

午前は、自然観察をしながら、一の滝、二の滝周辺を散策した。森の中でブナが果たす役割、葉っぱの種類などを資料をもとに分かりやすくご指導いただいた。午後は小刀を使って自然の竹で箸を作った。児童は慣れない小刀に苦戦しながら、できあがった世界に一つだけの箸に満足していた。



【自慢のマイ箸ができました！】

③「鳥海山の自然」

数時間にわたり鳥海山麓、高瀬峡周辺、鶴間池を歩き通した。講師の先生のガイドのもと、道なき道をかき分け、鶴間池の源となる滝まで行き、疲れ果てながらも歩き通した自分への自信を深めていた。また、大地に寝ころび、静寂の中で五感を働かせるという都会ではできない体験をした。

④「わくわく農業」

無農薬野菜にこだわる農家の方の畑で、かぶや人参、ピーマンなどを収穫しその場で水で洗って食べて、素材の味を感じるという体験をした。その後は自分たちで収穫した野菜を使って芋煮を作って食べた。

2, 日向川・鮭のつかみ取り

児童はウライ（遡上した鮭をとらえるしかけ）に入って、鮭の感触、泳ぐ速さ、大きさなどに歓声をあげながら、水の冷たさも忘れてつかみ取りに熱中していた。

3, 釜磯海岸見学と磯遊び

釜磯海岸は、湧水がいたるところから湧きだしている。湧水地点は、手や足を入れると引き込まれるように手足が自然ともぐっていく不思議な場所である。何度も何度も太ももくらいまで足をもぐらせたり、自分たちでその場所をほって広げたり、思い思いの活動を楽しんでいた。

4, 鳥海山登山

例年同様、山に詳しい地元の方々にガイドをお願いしていたが、大雨のため出発段階で登山は断念した。秋田県側の鳥海山麓の獅子が鼻湿原ハイキングに行き、昔、炭を作る材料に使われたことにより大きく変形している「あがりこ大王」というブナの木を見学した。その後、鳥海マリモとよばれる巨大なコケ、湧水だけでできた池などを見学した。強い雨の中で昼食を食べるという普段はできない経験もしたが、児童は楽しみながら活動していた。

＜地域の人々とのふれあい＞

1, 吹浦小学校との交流

2年目を迎えた今回の交流では、前年度の反省を生かし児童がゆったりと関わり合えるように午前、午後にわたって日程をくんだ。また、内容も児童のやりたい遊びを主として児童がリラックスして交流できるようにと考えた。最初は表情が堅かった児童も初めのエンカウンター、その後の触れあう時間の中で表情がゆるんできた。昼食は、吹浦小の保護者の方のご厚意で郷土食である芋煮を用意していただき、児童は何回もお代わりして喜んで食べていた。お別れの会では、両校で合唱をした。最後はアーチを作ってもらい、住所の教え合いをするなどして別れを惜しんでいた。

2, 遊佐町教育長の話

宮沢賢治の生家の近くで生まれ育った小田島健男遊佐町教育長から、宮沢賢治について様々な話をいただいた。宮沢賢治のお母さんが語った賢治の幼少期からの石を集めたり星が大好きだったという話から、そういう賢治だからこそできたといえる「虔十公園林」を読み聞かせていただいた。また、岩手県花巻の方言で作られた詩をその方言で音読していただいた。宮沢賢治の物語を読んだことがある子もない子も、宮沢賢治という人に興味をもって聞いていた。武蔵野に帰ってから、宮沢賢治の伝記を読む児童もいた。

3, 公益についての話

東北公益文科大学の大学院生で地元の小学校でも授業をしている林久美子さんから、「公益」とは何かという話をしていただいた。自然も大切に人も大切にする心は「公益」につながる。公益は自分のできる小さなことから始めることが大切で、それは近くのゴミを拾ったり、困っている人を助けてあげたりというようなこと、という話に「公益」という言葉に初めてふれた児童はその大切さを感じていた。

4, 地元の大学生ボランティア

2日目の課題別活動日には東北公益文科大学の学生がボランティアで6名参加してくれた。遊佐の自然を知っている大学生の存在は児童にも心強かった。「遊佐の川魚」をテーマにしていた児童は水生昆虫がいるポイントを聞いたり、一緒につかまえたりしながら交流した。

5, 民泊

2度目を迎えた遊佐町の旅館等への民泊では、前年度同様の温かな対応をしていただいた。各旅館で子どもたちは地元の話の聞いたり、囲碁を教えてもらったりと、地元の大人の方とゆっくりと交流することができた。

○児童の感想

- ・今日はずっと楽しみにしていた吹浦小との交流会です。私が一番楽しかったのはみんなでドッジボールをしたことです。友だちも増えてとても楽しかったです。
- ・人に優しくすることも公益だと分かりました。「公益はみんなのすぐそばに」という言葉を忘れないようにしたいです。



【吹浦小学校との交流】

- ・す足で川に入り、川遊びをした後、足が痛かったです。そしてくつをはいたら足に痛みを感じなかったので、改めて、くつの大きさを知りました。
- ・ぼくは鮭のつかみ取りで鮭は取れませんでした。でも楽しかったです。鮭にさわると鮭はぬるぬるしていました。さわれてうれしかったです。
- ・ぼくはセカンドスクールに行って山形に着いた時に「広いな」と思いました。日がたつにつれて、その広い中に自然や文化がかくれていることが分かりました。いろいろなことが学べて楽しいセカンドスクールでした。

○保護者の感想

- ・自分のことは自分でできるという自信と自覚が育ったようで、家に帰ってからも自分のことは自分でやるようになりました。早寝早起きの習慣もつきました。
- ・ご飯をもりもり食べ、残さないようになりました。
- ・「また行きたい。」と言いながらいろいろな話をしてくれました。指導員の先生との出会いもセカンドの楽しさとして残っているようです。

○総合的な学習の時間との関連について

- ・1学期は、吹浦小学校との交流の事前交流に力を入れた。国語の学習の発展として手紙の書き方にそって手紙を書いた。その後、関前紹介新聞をグループで作成した。山形の人に関前のよさをどう伝えるか、テーマ選びの段階から児童はこだわって考えていた。立体的な新聞を作りあげるなど、表現にも伝えようとする工夫がみられた。
- ・バケツ稲を育てることで、米作りの過程を体験した。規模は小さいものの芽だしから行う米作りをしたことで、収穫する喜びを味わうことができた。また、農家の方の苦労についても考えることができた。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

- ・檜原小学校と交流会をしていたことで交流会に対して具体的にイメージをもち、友達を作ろうと交流会を楽しみにする姿がみられた。また、4年生の時にも檜原小学校の友達に関前南小を紹介する発表を行っていたことが生き、吹浦小学校でも堂々とした発表ができた。

○次年度にむけての反省・課題

- ・課題追究活動を充実させていくには、児童の課題のもたせ方に工夫が必要である。児童の興味・関心を最大限生かしながらもある程度絞り込んでいかないと、活動はあるがねらいの不明確な、達成感の薄いものになってしまうおそれがある。そのためには、遊佐の自然や文化、人に関して十分な知識をもつ教員が必要である。さらに、教員の事前準備を早めに進めていかなければいけない。
- ・現地小学校との交流はねらいを十分に達成する活動であるが、どうしても受け入れてくださる現地校に負担がかかっている。早い時期に実踏にいき、十分に打ち合わせ、手紙のやりとりなどをこれまで以上に繰り返しておくことが必要である。

桜野小学校

10月4日～10月11日(7泊8日)

○日程表 桜野小 セカンドスクールテーマ “米・水・人”

10月4日(土)		10月5日(日)		10月6日(月)		10月7日(火)	
8:30	武蔵境駅集合	6:30	起床 健康チェック	6:30	起床 健康チェック	6:30	起床 健康チェック
9:00	出発	7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食
10:12	東京駅発	9:00	宿舎出発	9:00	宿舎出発	8:50	宿舎出発
12:34	新潟駅発		自然体験活動4コース		鮭のつかみどり (日向川採捕場)	10:30	鳥海山登山開始
14:49	酒田駅着		○魚と遊ぼう	11:00	鮭の加工、調理		昼食
			○木や草と遊ぼう	12:45	牛渡川・丸池の湧水		雪溪すべり
15:40	海浜青年の家着		○鳥海山の自然	14:00	海辺の湧水	14:00	下山開始
			○わくわく農業		(釜磯海水浴場)		
16:00	開校式	16:00	活動のまとめ・入浴	16:00	活動のまとめ・入浴	16:00	登山口着
18:00	夕食						
19:00	入浴・学習のまとめ	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
20:30	健康チェック	19:00	日記 学習のまとめ	19:00	日記・学習のまとめ	19:00	日記 学習のまとめ
21:00	消灯 就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・一学期、セカンドスクールを経験した上級生や指導員、教員から様々な活動体験や内容を聞き、体験活動の見通しをもたせ、意欲を高めた。(国語科「インタビュー名人になろう」)
- ・社会科教科書の農業学習の単位では、庄内平野の稲作が取り上げられている。その中で生産者であり稲作について説明している執筆者にセカンドスクール期間中に会うことができることから、社会科の授業そのものを事前学習に位置づけることができた。

☆庄内平野・遊佐町・酒田市の位置、自然環境について

☆米作りの実際、流通

☆循環型農業について

- ・本校の「総合的な学習の時間(桜野タイム)」では、校内の田んぼでの米作り体験と調べ学習の二本立てが伝統となっており、現地での体験に自分なりの課題をもって取り組めるようにした。

☆米作り体験・・・田植えから稲刈りまで

☆調べ学習・・・米事典づくり＝「米」に関して興味のあることを調べる。水田の役割を豊かな生態系と自然保護の観点から理解する。

- ・生活班での話し合いや、一緒に給食を食べるなどかわり合いの活動を増やし、集団活動が円滑に進むようにした。

山形県飽海郡遊佐町

参加人数 男子32 名 女子27名
計59名

10月8日（水）		10月9日（木）		10月10日（金）		10月11日（土）	
6:30	起床 健康チェック	6:30	起床 健康チェック	6:30	起床 健康チェック	6:30	起床 健康チェック
7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	7:00	清掃 朝食	7:00	片付け 朝食
8:50	宿舎出発	9:00	宿舎出発	9:00	地域の語り部の方と交流	8:30	大掃除
9:30	鳥海小学校着	9:30	米入庫作業見学（北平田倉庫）		はじめの会	9:00	閉校式 宿舎出発
	鳥海小学校との交流	10:30	本楯カントリーエレベーター見学（JA庄内みどり）		うどんづくり	10:31	酒田駅発
12:00	交流給食	12:00	日和山公園（昼食）	13:00	昼食（うどん）	13:15	新潟駅発
	伊藤さんの話	13:30	山居倉庫		昔遊び、昔話（体育館）	15:40	東京駅発
	後藤さんの話		庄内米歴史資料館		お別れの会		
16:30	宿舎着		精米センター見学				
17:00	入浴・活動のまとめ	16:00	入浴・活動のまとめ	16:00	入浴・活動のまとめ	16:20	武蔵境駅到着
18:30	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	16:30	解散式
19:30	日記・学習のまとめ	19:00	日記・学習のまとめ	19:00	日記・学習のまとめ		解散
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯		

② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの生活・行動班ごとに、活動のまとめの話し合いをし、お世話になった方々や、交流した鳥海小学校の5年生に手紙を書く。
- ・7泊8日の中で印象に残った活動や体験を作文にまとめる。
- ・「総合的な学習の時間（桜野タイム）」で、まとめとして「セカンドスクール新聞」を作る。体験してきたことをもとに、事前に行っていた「米事典をつくろう」の学習を継続する。米作りの延長として校内で刈ったイネの脱穀を行い、収穫した餅米で「もちつき大会」を実施する。

○特色ある活動内容 “米・水・人”

<自然体験活動>

1、グループ別自然体験活動

遊佐自然文化学校スタッフによるグループ別自然体験活動。4つのコースに分かれ活動した。

①「魚と遊ぼう」

吹浦港で魚釣り体験をした。簡易な釣竿をスタッフに用意していただき、餌のつけ方から釣り方まで教わって夕方まで飽きることなく釣り糸を垂らした。収穫は、フグを中心に数は少なかったが、メバル、アイナメなど種類は例年になく多かった。

②「木や草花と遊ぼう」

鳥海山麓の一の滝、二の滝周辺の植物を観察しながらハイキングをした。木漏れ日のブナ林、豪快に流れ落ちる滝を見ながら、雪深い山の木はしなやかで折れにくいこと、木の名の由来等を遊佐自然文化学校のスタッフの方から教えていただいた。観察したコース内に食べられる実があることも分かり、喜んで見つけていた。昼食後は、箸やこまを作り、セカンドスクール期間中も自分の箸を使って食事していた。

③「鳥海山の自然」

鳥海山登山のスペシャリストの案内で、湧き水を田に送り込むために昔の人が作った川沿いを歩き、湧き水を味わったり植物のことを聞いたりしながら、自然のダイナミックさを感じることができた。午後は、雨水の自然の川を沢登りし、水温や水量など湧き水の川との違いを体で知ることができた。

④「わくわく農業」

砂丘での有機野菜栽培の様子を、郷土料理「いも煮」の材料野菜の採り入れを通して味わいながら学んだ。とりたての新鮮な野菜をそのまま食べ、その甘さに驚いていた。砂丘での農業の苦労や工夫は何かなど農家の人から多くのことを聞きながら、楽しいひとときをもつことができた。午後は、掘ったばかりのサツマイモを焼き芋にさせていただき、焼き上がるまで小高い丘の上からの景色を楽しみ、日本海と庄内平野、砂丘の位置を確認できた。

2、鳥海山と水

鳥海山麓に位置する遊佐町は、豊富な湧き水、鮭の遡上する川など豊かな自然に恵まれている。その自然を最大限に生かした体験をした。

①「日向川採捕場での鮭つかみ取り」

70～80mの川幅いっぱいに仕掛けられた梁の両側にウライという檻が設けられていて、そこに遡上した鮭が入り込む。そこに子どもたちもグループ毎に入り、中で泳ぐ鮭のつかみ取りに挑戦した。うまく追い込んで捕まえた鮭は、大きく重く抱きかかえないと持てないほどだった。作業場では捕った鮭の採卵、受精の様子を見せていただいた。

②「鮭加工工場」

採卵後の新しくできた鮭の加工場に移動し、すり身ボール作りと切り身の炭火焼き体験をして昼食のおかずとしていただいた。また、すまし汁もいただいて、雨のため外で食べることができなかったが、おかわりもたくさんでて、おいしくいただき、「命をいただく」ということを実感する場面となった。

③「牛渡川・丸池」

大きな杉木立の中の丸池は澄んだエメラルドグリーンで、底には倒れて沈みこんだ樹木がそのまま見える。地元の信仰の対象にもなっている幻想的、神秘的な雰囲気を味わった。

④「釜磯海岸」

波打ち際の砂の中から湧水が出ている。鳥海山に降った雨が200年もかかって湧いてきた水であり、海の塩水との違い全身を使い砂遊びや水遊びを楽しみ、自然の不思議さに感動しているようだった。

⑤「鳥海山登山・雪渓」

快晴の中、眼下に広がる雄大な景色を楽しみながら、一步一步目的地を目指した。途中スタッフの方に、木や草の話を聞きながら、登山を楽しんだ。標高が上がるにつれ、変わってくる植生や、雲の切れ間から見た広大な庄内平野、そしてキラキラ輝く日本海に皆感動した。雪渓は昨年より広く残っており、雪渓すべりも思う存分楽しむことができた。

下山も時間はかかったが、着実な歩みで、けがをする子どもでず、全員無事に降りることができた。バスのなかでも満足感からか明るい歌声がはずんでいた。

＜交流体験＞

1、「鳥海小学校5年生との交流」

昨年の遊佐町立高瀬小学校との交流に続いて今年は酒田市立鳥海小学校との交流が可能となった。鳥海小学校は、酒田市のほぼ中央部にあり、鳥海中学校が隣接する田園風景の中の学校である。事前には、写真や手紙の交換をし、当日実施する「校内オリエンテーリング」の班を作り自己紹介カードも交換した。

当日は、全校児童との対面式で、鳥海小学校からは、谷川俊太郎作詞、小室等作曲の校歌や合奏、合唱が披露され、本校からは、校歌と連合音楽会で歌う「島唄」、運動会でやった「桜野ソーラン2008」を元気よく踊った。そのあと、5年生同士のグループとなり、広い校舎、校庭に置かれたチェックポイントを回るウォークラリーをし、説明を受けながら仲良く回ることができた。

交流給食として鳥海小学校の調理室で作られた「いも煮」とおにぎり、地元産の梨をおいしくいただきながら、話題が弾んでいた。

バスに乗りこんでからも、別れがたく窓から身を乗り出している子どもいて、いい交流となったことが伝わってきた。セカンドスクール終了後も文通をしている子どもも多く、今後も継続できたらと思う。



【鳥海小学校との交流～桜野ソーラン2008を披露】

2、「地域のお年寄りの方との交流」

例年、遊佐に残る伝統工芸品の「一輪挿し」を地元のお年寄りの方の指導で作ってきたが、今年は、材料となる藁がなかなか集まらないという事情もあって、「うどんづくり」と「昔遊び」「昔話」の一日とした。作業当日の午前中の「うどん作り」からグループに入っていたいただいたのは、昨年からであったが、ゆったりと過ごすこともでき好評であったため、今年も実施した。昨年に比べ、児童数も少なかったので、より効率的に時間を使うことができた。

つくったうどんをおいしそうに、話をしながら食べることもでき、「昔遊び」や「昔話」もゆつくりとふれあうことができた。最後は、代表の語り部の方に昔話を語ってもらい、セカンドスクール最終日にふさわしい活動を行うことができた。

3、「農家の方との交流」

社会科の教科書に載っている酒田の伊藤千春氏と後藤悟氏の話聞き、循環型農業の実地を実地で見たり、聞いたりすることができた。お二人への質問も、教室での学習を蓄積としながら、なかなか聞けない生の話が聞けて、子どもたちの驚きの声があがるなど効果的な交流となった。

＜農業体験と学習＞

砂丘を利用した農業や、日本有数の穀倉地帯である庄内平野の米作りについて栽培から収穫、保管、発送までの様子を2日間にわたり体験・見学・聞き書きをすることができた。

1、「本楯地区の農業」

社会科教科書で取り上げられている本楯地区に実際に行き、教科書に紹介されている伊藤千春氏から直接お話を伺える貴重な活動である。教室で学んだことを知識理解にとどまらず、

体感できるのはとても恵まれていることと言える。今年も、稲の生育・品種、自然を大切にしたい一粒でも多くおいしい米を作りたいという願い、農業の危機と言われる状況の中での米作りに懸ける思い等について伺うことができた。循環型農業の先駆となっている本楯地区での人のネットワークとそれを支える後藤悟氏らの情熱にふれ、教科書では学べないことをじかに体験し学んだ。赤ちゃん豚を抱いた子どもたちの柔らかな笑顔は、セカンドスクール終盤の安息となったようだ。

2、「米入庫作業見学」

本楯カンントリーエレベーターでは、軽トラックで米が運ばれ入庫するまでの様子や保管の様子を見学し、説明を受けることができた。北平田倉庫では、棒を刺しての検米を体験させていただいたり、等級の違いや、入庫作業の実際を見学した。検米作業では、ていねいにひとつひとつの作業を子どもたち自身がやることができ、満足したようだった。また入庫作業のリフトさばきに大きな拍手を送るなど働いている方の苦労や努力にもふれ合うことができた。

3、「山居倉庫」

昔から庄内地方の米の集積場所で、山型屋根の倉庫が連なっている。大きなけやき並木で真夏の西日や強風を防いでいること、二重屋根で温度管理を工夫していたことなどを学んだ。隣の歴史資料館では、米作りの変遷や流通の様子を学ぶことができた。詳しく説明もしてもらい現在の農業の問題点など熱く語っていただいたことで、子どもたちにとって生きた学習となった。

4、「庄内みどり精米センター」

庄内米の中核センターとしての働きをしている場所である。全国各地からの注文に応じて精米したり、ブレンド米を作ったりしている。最盛期の日であったため、中に入っただけの見学はできなかったが、ビデオ視聴と説明を詳しくしていただいた。

＜生活体験活動＞

学年全員が同じ宿舎で生活し、毎日の生活リズムを崩さないよう配慮することで、ルールやマナーの意味、友だちとのかかわりなどを学校生活以上に深くとらえ、考えさせることができた。とくに、あいさつや清掃、食事のマナーなど、日に日に定着していく様子を確認することができた。

○児童の感想

- ・「わくわく農業」のコースでとったばかりのピーマン、カブなどの野菜を生のまま食べました。オクラを生で食べることができるとは思わなかったのでびっくりしました。
- ・鳥海小の子たちとウォークラリーをしたり給食を食べたりしてすぐに慣れて友だちになりました。最後は住所などをこうかんしたので文通するのが楽しみです。
- ・交流会で運動会でやった「桜野ソーラン 2008」を元気よくおどれて良かったです。新聞にのってびっくりしました。
- ・鳥海山での雪渓すべりで何回も転んでしまったけど、友だちとたくさんすべることができて楽しかったです。
- ・最後の日に地域の方とうどんをつくったり、昔話や方言を教えてもらったりしました。昔話は「なぜ海の水はしょっぱいか」という話でした。方言そのままのお話でとっても良かったです。

○保護者の感想

- ・一週間待つ身としては長く感じて心配していましたが、本人はとても楽しかったかったと言
い、興奮気味に話してくれました。とても貴重な体験をして、大切な思い出も沢山のお土産
にしたようです。「今からもう一度行きたい」という一言にすべてが語られていたようです。
ありがとうございました。
- ・明るさが増し、ちょっとだけ行動的になったような気がします。セカンド経験のある兄とよ
く話をし、盛り上がっていました。なんとなく大人になって帰ってきた感じがします。
- ・ご飯がおいしかったことに、母としては複雑な気持ちがありますが、紅葉がきれいだったり、
空気がおおいしかったりして「今度家族で行こう」と言われ納得してしまいました。

○「総合的な学習の時間」との関連ならびに地域間交流の成果



【地域の語り部の方との交流】

本校では、学校行事としてカウントしている時間
を除き、現地での活動時間をすべて「総合的な学習
の時間（桜野タイム）」としている。これは庄内平
野での様々な体験、活動がまさに「総合」そのもの
であるという考えに基づいている。現地の雄大な自
然とふれあい、庄内の素朴な人の温かさや言葉、文
化に触れ、子どもたちが身体で体験する活動は、武
蔵野市が教育のキーワードとしている「身体・言
語・自然」にもつながるといえる。

また、米どころ庄内での活動は、5年生が年間を
通して取り組んでいる米を題材としての総合的な
学習の時間「桜野タイム」の学習活動とぴったりと
合致している。

昨年度の高瀬小学校との交流に続き、今年度は鳥海小学校と交流ができ、お互いよい刺激を
受け、今後に継続する活動となった。また、地域の語り部の方たちとの交流も丸一日かけてじ
っくりともつことができ、こちらも文通が続いている。

○プレセカンドスクールの効果が見られた点

- ・プレセカンドスクールでその土地に合った体験活動を経験することで期待感が高まり、セカ
ンドスクールでの人とのふれ合いに対して意欲的にかかわることができた。
- ・プレセカンドスクールでの集団生活の経験が自信となり、スムーズに7泊の宿泊生活を送る
ことができた。

○次年度に向けての反省・課題

- ・海浜青年の家の存続形態を考慮しながら、今後も遊佐町や酒田市の自然を生かした、セカン
ドスクールならではの活動が継続できるよう綿密に計画を立てていきたい。
- ・現地ならではの活動を吟味し、7泊の学習活動がさらに充実するよう現地と調整しながら計
画を立てていきたい。